

目次

一、卷頭の言

二、

特別寄稿

酒佐山荒大志松成井田
藤田谷森田尾尾山上中
進忠高竜文明千津正哲
之廣卓一郎茂強哲
介之先生一穗

先生先生先生先生先生先生
先生先生先生先生先生先生

専成上国近京関金
修城智士畿都西福沢
館業科大
大大大大大大
学学学学学学学

.....
4 4 4 3 3 3 3
4 2 0 8 6 4 2 0

.....
2 2 2 1 1 1 1
8 5 1 7 5 3 1

四、特別企画

早横明富東洋帝天拓大
稻渕明治山京理央殖正
田國治学院大
立大
大
学学学学学学学学

.....
6 6 6 6 6 5 5 5
8 6 4 2 0 8 6 4
0 7 7 0

五、加盟校紹介
歴代幹部名簿
全日本学生合氣道連盟規約
加盟校連絡先

.....
8 0 7 4 7 2
0

一、卷頭の言

全日本学生合気道連盟第

第五十六期委員長 中西 優介

思われます。

今年度も例年に続きまして、第四十四号連盟誌を発行することができました。この連盟誌は先生方・加盟校の皆様のご寄稿、及び各ポンサーの皆様のご支援により成り立つてゐるものであります。皆様には心より御礼申し上げます。私事で申しきつございませんが、毎年この連盟誌によつて、普段交流することが難しい先生方、大学合気道部の皆様の稽古状況や近況、お考えなどを伺うことができ、大変楽しく拝見しております。皆様もこの連盟誌を少しでも楽しくお読みいただければ幸いに存じます。

さて、今年度も様々な出来事がございましたが、その中で

も加盟大学の皆様にも関係があるものの一つが、国立大学の文系学部廃止問題でしょうか。これにより必ずしもすべての大学が文系学部を廃止するわけではないですが、実質的に国は、大学でのこういった文化的研究は役に立たないから支援を減らすと言いつたようなものです。今後日本全体こういつた学問が衰退することが危惧されます。特に日本史や日本の思想、文化など、国外では研究の行われにくい学問分野に関しては、国からの援助が失われれば最悪の場合学問分野そのものの消滅といったことさらあり得ると思われます。少し前には受験科目でないという理由で、高校で日本史を教えない、いわゆる日本史未履修問題もありました。これらの話が出てくるという時点で、実学やグローバル化のみを重んじ、日本独自の思想や文化といった形にならないものをないがしろにする風潮が日本全体に広がっているのではないかと

私は大学で合気道部に入り、単に合気道的な体の動かし方のみでなく、日本固有の思想や価値観、相手と対峙したときの気の持ちようなど、さまざまなことを学び、自分の価値観も大きく変わりました。私はやはり、目に見える形で役には立たなくとも、個人の生き方に影響する思想や歴史を学ぶことは、重要なことだと感じております。特に日本人として生まれた私たちにとっては、日本の伝統や文化、考え方などが最も自分に合うことでしょう。そして現在、そういつた内面的・文化的な教育がおろそかにされがちな日本において、日本のかき良き文化や価値観を文字通り体で感じることができる合気道は、私たちに非常に有意義な経験を与えてくれるよう思われます。

本連盟誌を皆様がお読みになつていては、第五十六回全日本学生合気道演武大会が開催されてることかと思ひます。発足と同年度に第一回の演武大会を実施いたしました。この全日本学生合気道連盟は今年で56年目を迎えることとなります。56年間という長い間、続いてきた歴史というものを感じております。この長い期間この全日本学生合気道連盟が続いてきたのも、ひとえに皆様のご協力あってのことと思います。先生方、加盟校の皆様には厚く御礼申し上げるとともに、これからも全日本学生合気道連盟に対します変わらぬご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

二、特別寄稿

田中茂穂先生

敗戦後七十年の夏に想う

至誠館名譽館長 田中茂穂



毎年のことだが八月が近づくと、新聞やテレビは特別の番組をくみ、戦争の悲惨を強調し、二度と戦争を起すことのないようになると、繰り返すことが恒例のようになっている。

今年はとくに戦後七十年ということもあり、首相談話が発表されるとのことでのことで、その内容につき、曰く、侵略、植民地支配を認め、謝罪すべきである、などとする論が喧そんたくしい。

安倍首相の心中を忖度すれば、侵略、謝罪の発言は無いのではないかと、期待されるが中・韓国両國の圧力や、國內世論等の動向を考えると、結局は、村山談話の踏襲になるのではないかと、危惧される。

私は未来永劫、謝罪し続ける考えには、どうしても従うことが出来ない。首相談話の内容は、今年五月かに首相訪米の折、彼の國の國会で演説されたが、この発言内容で十分であると思つてている。

戦後のわが國は、米國による洗脳のため、わが國のみが加害國であると考える人が今もなお多く、殘念至極である。

私は、戦争は、加害國であると同時に、被害國であり又、この逆とも言えると思つてている。

東京大空襲、広島、長崎で殺された幾十万人の無辜の民は、正に被害者であらう。

史上、最も残虐なる爆弾を投下したのは何國であつたのか、歐米先進國が世界各地を植民地とし、多年にわたり支配し、搾取し続けたことにつき、謝罪をしたことがあるのか、わが國民は考えたことがあるのだらうか。

わが師、葦津珍彦は、「戦争はどう考えてもそれぞれ五分と五

分の理が存する」としばしばお話をなつていた。

これに類する説を紹介すると、小林秀雄は「この大戦争は一部の人達の無知と野心とから起つたか、それさえなければ、起らなかつたか、どうも僕にはそんなお目出度い歴史観は持てないよ。僕は歴史の必然性というものをもつと恐ろしいものと考えている」。

山本夏彦は、「戦争に勝敗はあるが、正邪はない。戦勝國と敗戦國はあるが、その間に正義がわりこむ余地はない。古往今来勝者は敗者を存分にした。殺すか奴隸にした。敗けた國は臥薪嘗胆して今度は反対に勝つと、同じ復讐を復讐した。こうして何千年来戦争はあつた。これからもある」。

連盟に集う諸兄姉には、どうかこの三賢人のお話をとくと玩味してほしいものである。

申すまでもないが、私は反米主義者、ましてや好戦主義者で

はなく、平和の尊さはよく承知している。

しかし、日米同盟が強化されれば、わが國の平和が万全であるとは信じない。わが國は米・露・中の三大軍事国家の谷間にあり、如何にして、独立と安全を確保出来るかについて、全國民あげて必死に考究し、努力すべきときなのである。

七十年の昔を振り返れば正に往事茫々である。七十年前の私は、^{よおい}十七才の米英撃滅の念に燃えに燃えた一、軍國少年であつた。

今や、足腰の衰えを嘆くのみ、誠に慚愧にたえぬ次第である。今年も八月十五日が近づいた。私はいつものように早朝、家を出て靖国に詣で、族二人との対面を果したいと思つてゐる。

さきの大戦でわが族三人は雄々しく戦い、祖國に殉じた。靖国の社頭にて見える三人は、いつも英姿颯爽とし、昨今の老い行くわれを哀れむかのようである。

全日本学生合氣道連盟の益々の発展と活躍を祈るものである。

(平成二十七年八月記)

アンケート

一、先生の座右の銘がございましたら承りたく存じます
「不動如山」

二、もし合氣道をなさつていなかつたら、どのようなことをなさつていましたか
経済人、あるいは平凡なる一市民

三、長く合氣道を続ける秘訣を教えて下さい
好きになり、稽古が楽しくなること

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい
浮ぶのは茫々たる武藏野

五、先生のお好きな映画がございましたら教えて頂けますか
時代物、西部劇

六、もし差支えなければ、合氣道以外の趣味を教えて下さい
旅行、読書

七、学生に一言お願いいたします

大和魂の振起。幸多き人生たれと祈る。活動中の怪我、事故のないよう留意のこと。

井上強一先生



八十才に手の届く所まで生きて来て、合気道を修業していたお蔭で、毎日が楽しく過ごせると云う事は、幸福な一生であった。残りの人生も、心おきなく生きて行き度い。同時に、経験を活かして、後輩達の役に立つ様に努める所存である。質問に答え乍ら、文を進めたく思います。

アンケート

一、先生の座右の銘がございましたら承りたく存じます

座右の銘は、「合氣即生活」です。

要するに、合気道の訓えそのものを生活に活かして、日々努力を重ねて行くと云う事です。

二、もし合気道をなさっていなかつたら、どのようなことをなさっていましたか

外交官に成り、日本の良さを世界に発信する事が夢でした。

三、長く合気道を続ける秘訣を教えて下さい

合気道が、何よりも好きであることです。

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい

北海道の雄大な自然の素晴らしさは、今も、目に焼き付いて居る。

五、先生のお好きな映画がございましたら教えて頂けますか

「風と共に去りぬ」と「ローマの休日」が心にしつかりと居る。

六、もし差支えなければ、合気道以外の趣味を教えて下さい
書道

七、学生に一言お願いいたします

学生の本来を自覚し、今有ることに感謝し、一生懸命
にすべての事に近くす事。

以上の事を大切にして、明るく、楽しい、日々を過ごして行きたい。

成山哲郎先生

ご挨拶

合気道はよく受身の武道であると言われます。第三者からみれば、相手の攻撃を待つてから技をかけているように見えるのかも知れません。しかし、開祖の植芝盛平翁は、「打たしめる、突かしめる、持たしめる」ということを指導されたと、私自身、師匠から直接教えを受けました。打たれてから、突かれてから、持たれてからでは遅い。相手が来てから行くのではなく、来るよう仕向けるのだと。学生諸君が技の稽古を通して、そういったことを生き方の中で体現してくれることを願っています。

成山哲郎



アンケート

学生に一言お願いいたします

一面事なかれ主義、刹那主義的なところが多いように思いますが、何事にも自ら進んで、積極性を持つて行動してほしいと思います。

また、想念は強ければ強いほど、全てはその方向に進んでいくものと考えます。強い信念を持つて物事に取り組んでほしいと思います。

松尾正純先生



二部構成を依頼されましたが、屋上屋を架すより、アンケートに応えながら、思うままを書かせてもらいました。あしからず！

アンケート

一、先生の座右の銘がございましたら承りたく存じます
「即今、当処、自己」この瞬間の、ここにいる、自分。
未来のことを心配したり、過去のことを悩んだり、世間の目を気にしたりする、そのようなことから自由になつて、「今、ここで、自分があるがまま熱心に生きる」

二、もし合気道をなさつていなかつたら、どのようなことをなさつていましたか

武道であれ、スポーツであれ、好きになつた何かを合気道と同じように日々熱心に続けそして今日に至つていると思います。

三、長く合気道を続ける秘訣を教えて下さい
合気道が、「好きだ」と言えることです。

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい

生まれたのは、当時日本で今、朝鮮民主主義人民共和国の平安北道です。敗戦後一年経つた頃近辺に残された日本人達（壯年男子は徵兵されていない）老幼婦女集団で昼間は山に隠れ、夜間逃避行を続け、心ならずも残留孤児をつくりつつ、僅かの人数が帰国できました。

四歳の私は、広壯な住居、大勢の雇人に大型犬、白い屏と見渡す限り雪に覆われた田畠を思い出しますが、逃避行の記憶は無く、次いで帰国船船底の汚れ臭く密集した人々に揉まれ揺られて気分が悪くなつたことが記憶に残つてい

ます。

郵政省職員の祖父の関係で、神奈川県足柄下郡真鶴町の旧日本軍レーダー施設転用の引揚者寮で小学校五年まで過ごしました。「故郷」と言えば、こちらでしようか。

ここは漁村で漁師の子女が多く、気性は荒かつたけれど、

心根はさっぱりしていたことを覚えています。

夏は、遠い昔、富士山の噴火の溶岩流でできた真鶴半島の急坂を駆け下り、砂浜が殆ど無く岩がころころの浜辺で、泳ぎ、潜り、釣りをして薄暗くなるまで過ごし、度々あわび、サザエ、なまこ、カサゴ、など夕食のおかずを持ち帰つたことを懐かしく思い出します。

五、

先生のお好きな映画がございましたら教えて頂けますか
「ラブストーリー（韓国）」　何度見ても、そのたび覚えず涙腺が緩みます。

六、

もし差支えなければ、合気道以外の趣味を教えて下さい

(一) 読書

歴史書、推理小説（英國ものが好き）

たとえば、中学高校と表面的に知った日本史を、また学ぶのは、その後一五年間の発見・発掘・研究成果などを目にすることが出来、知的興奮を覚えて楽しめます。
・往路復路無事は一回のみだった遣唐使船は、何故遭難可能性の高い時期に出帆した?
・難破し命からがら身一つで都に辿りついた一行が、帰国時には沢山の文物を購入出来たのは?などいろいろ楽しんでいます。

(二) 散歩

横浜地下鉄と市内バスの無料乗車券取得年齢に達し、飛躍的に散歩範囲が広がって楽しみが増えました。

川崎市の田中茂穂先生宅を散歩がてら、お訪ねしたこともあります。

また京都産業大学を定期的に訪れる際は毎回三日間、奈良京都の（観光より）散歩優先で街並みを愛で、楽しんでいます。

今夏は、皆さんを十一月二六日から十二月一十六日まで、宿泊食事付きで「合気道フェスティバル」に招待するサンクトペテルブルク工科大学合気道クラス合宿に、二週間参加し黒海沿岸の保養地セバストー・ポリ散歩を心ゆくまで楽しもうと目論んでいます。

七、

学生に一言お願ひいたします
人生を、何かを求めて生きるのでなく「あるがままに生きてほしい」と願っています。

せちがらいこの世間の中で、あるがままに生きようとしても、思い通りにならないことが多く、現実はとても苦しい思いをするでしよう。

そんなとき、禅の教え「即今、当處、自己」を思い出してください！

松尾千津子先生



20代から50代の終りにかけて、結婚・子育て・仕事・合気道・親の看護と毎日が慌ただしく過ぎて、いつも時間が足りない生活から、やっと脱け出し、今年から少し落ち着いた暮しができるようになつてきました。

寺田先生が遠くを見つめて「人生は早いものですよ あつと いう間に過ぎてしまう」と言われた時、私はまだ50代の初めで、日々の雑事や合気道の指導に明け暮れていた時期でしたので、そんなものかなあとという漠然とした感じで実感が伴いませんでした。60代の後半になり過去を振り返る余裕が出て来たこの頃、あの時の先生の言葉が折に触れて思い出されます。先生の遠くに思いを馳せる表情と共に。

総てのしがらみから解放されて、やつと自由な時間が持てる様になつた今、この暫しの恩寵の時を、どう生きるかがこれら私の課題です。さて、これから何をしましようか？ 考え中です。

アンケート 一、先生の座右の銘がございましたら承りたく存じます

「夢は叶う」

若い時に漠然と感じた事、考えた事を強く願うと大抵の事は叶うのではないでしょうか。（そうなるための努力は必要ですが）

二、もし合気道をなさつていなかつたら、どのようなことをなさつていましたか

三人の娘たちの成長を楽しみにしながらもそれだけでは満足せず、何かをしていくと思いますが、早い時期から合気道をしていたので他の事は思いつきません。

三、長く合気道を続ける秘訣を教えて下さい

合気道を教えている、子供たち、学生、男性、女性、それに合わせて練習方法を考えたり上手くなつていく過程を見ているのも楽しいですし、合宿や演武会の構成を考えてそれが総て上手くいった時の達成感など、やはり合気道が好きで、どんなに疲れていても稽古の日には出掛けて行くのは、今まで一度も合気道に関する事で厭な思いをした事が無いのが長く続ける秘訣かもしません。

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい

父の勤務の都合で、福岡・佐賀・熊本で中学二年生まで育ちました。中でも熊本は多感な中学時代を過ごしたので友人も多く、今でもつき合いがあります。その熊本で親友ができ、学校帰りには互いの家を送つて行つたり送られたり、名残惜しくて何時までも話し込んでいました。毎日クラスで一緒にいるのにナンデ、アンナニ話す事があつたのか不思議です。ある夏休みの日、彼女の家で水浴びをして、その後はお母様が作つて下さった焼きりんごのお菓子の時間。その時のバターの香りとシロップの味の美味しかった事！　忘れられません。もう半世紀以上前の遠い昔の少女時代の懐かしい思い出です。

五、先生のお好きな映画がございましたら教えて頂けますか

ちと恥ずかしながら「風と共に去りぬ」主人公、スカーレット・オハラのように素敵な男性に会つて、夢の様な恋をする事に憧れました。

六、もし差支えなければ、合気道以外の趣味を教えて下さい

娘時代は花嫁修業の一貫として、小原流の生け花を習っていました。結婚後は、もっと植物が好きになりベランダは全て花で一杯になつた程です。この二、三年は家庭菜園にはまり、20坪程の土地に花・果実・野菜を育てています。

七、学生に一言お願ひいたします

今まで過ごして来た年月の中で自分が好きだなと思つた事、関心がある事に出来たら、それを人よりちょっと熱心に続けてみて下さい。

志々田文明先生

剣道に学ぶ基本稽古の重要性



昭和四年五月、天覧武道大会が皇居内旧三の丸覆馬場及び済寧館に於いて開催された。大会は柔道と剣道の試合のみで、選士権は府県代表による府県選士の部と、専門家選士の部に分かれていた。専門家とは各武道を職業として教える指導者をいい、専門家の多くは大日本武徳会（武專）関係の指導者と講道館の指導者が占めた。剣道専門家の部の優勝者は、「強さの中の気品」をもち「剣聖」と称えられた持田盛二範士十段である。

武專の前身である武術教員養成所は明治三八年に設立された。武專はその後の全国の武道教員養成の本山として機能し、数々の優れた武道家を輩出した。その成功の主因の一つは、警視庁師範・内藤高治を獲得したことにある。剣道主任教授に抜擢された内藤範士は、全国から參集した若き俊英達に、泰然として相手の動きに動ぜず、氣で押して間を詰めて面を打つという「先先の先」の勝を重んじる剣風と、厳格な礼法とを植え付け、これを武專の氣風とした。学生が待ち剣で戦った場合は、勝つても叱られたという。

私が注目するのは、内藤範士が修行の早い時期に行われる試合を批判した点にある。「稽古も碌に積まぬ中から、試合ばかり先に致しますから、その勝敗も自然と不十分なもののみ多くなり、試合ではなく争いとなつて、割合に進歩」しない。また「悪い技癖を覚えて」その後の進歩の妨げになる、と言うのだ。

持田範士は父親の導きにより六歳で剣道を始め、素振り三年の習いに従つて面打ち・切返しの「打込み稽古」の反復によつて成長した。「掛かり稽古」が始まつたのは五年後で、初めて厳しい「地稽古」（対等の気位で行う互角稽古）の試練に遭つたは何と十年後の十五歳の時である。立派な剣道家となつた持田が二十歳過ぎに武專に入ると、ここでもしばらくは基本動作を

飽きるほど繰り返させられたという。

近代剣道史を学んで驚かされることは、このような基礎・基本を長期間繰り返して基盤を養成するシステムが連綿と伝承されてきていることである。稽古とは上級者が下級者を導く師弟同行の修行法であり、手間と愛情が必要なものである。

合気道界ではどうであろうか。恐らくは合気道の会派によつても異なるだろうし、同じ会派内でも指導者によつてさまざまであろう。私がかかわる合気道部には、掛かり稽古によつて剣道界に匹敵する基本の確立を推奨している。往時の部には概ね一年間は掛かり稽古、二年目に掛かり稽古と引立て稽古、三年目に引立て稽古と乱取り稽古、四年で試合というサイクルがあつた。合気道の基礎形成には形稽古が重要なのである。

アンケート

一、先生の座右の銘が「ございましたら承りたく存じます
「水滴岩をも穿つ」

二、もし合気道をなさつていなかつたら、どのようなことをなさつていましたか
わからません。

三、長く合気道を続ける秘訣を教えて下さい

続けることに秘訣はありません。「楽しさ」が動機付けになるのでしようね。

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい

父の勤務の都合で、福岡・佐賀・熊本で中学二年生まで育育ちは新宿、出自は広島です。子供のころ、新宿の家の近所の神社には、縁日に沢山の出店がでたり、夏には加えて盆踊りがありました。子供を守ろうとする教育力が町や社会にあり、よい時代でした。

五、先生のお好きな映画がございましたら教えて頂けますか
「戦場のピアニスト」はよい映画ですね。

六、もし差支えなければ、合気道以外の趣味を教えて下さい
好きな歌を唄うことくらいしか、時間がないですね。

七、学生に一言お願ひいたします

もつと日常の交流をするとよいと思います。皆さんそれぞれ魅力があるのですから。

〈略歴〉

1949年東京生まれ。早稲田大学第一文学部哲学科卒業。筑波大学大学院体育研究科修了。現在早稲田大学スポーツ科学学院教授。博士（人間科学）。早稲田大学合気道部長・師範。日本合気道協会師範。

大森竜一先生

人生に無駄なし

昭道館合気道連盟 大森竜一



最近ふと学生時代の自分の合気道スタイルを思い出し、懐かしくもあり、羨ましくもあり、それでいて恥ずかしさもある、といった何とも言えない不思議な気持ちになることがあります。それは今私の合気道スタイルとは全く別のスタイルだったからです。今の私しか知らない学生諸君にとつては、想像するごと自分が難しいかも知れませんが、当時の私の合気道は、技の理合いを全く持つて無視し、学生時代ならではの勢いと威圧感で相手を威嚇し、どんな体勢からでも力任せに技を掛け、ねじ伏せることに特化した、正にパワー合気道を地で行つた「剛能く全てを制する」合気道でした。

私が合気道を始めたのは成山師範の技に一目ぼれをしたことになりますが、奇しくも実際にやっていたことといえば師範の技には似ても似つかない、むしろ結果的には教えとは真逆のことばかりで、今思えばとても「合気道」という言葉を当てはめてよいのかどうかを疑うような「合気道」だった気がします。それでも学生時代の溢れんばかりのパワーは個人的には大好きですし、当時のパワー合気道はやはり懐かしく思います。それに、一度パワー合気道を突き詰めた経験があるからこそ、相手の力を利用する合気道本来の理合いを身をもつて感じることが出来たのかもしれません。皆様ご存じのとおり私の職業は合気道家です。「人生に無駄なし」と言つたところでしようか。昔の自分を思い出したとりとめのない話ではありますが、私のこの経験は合気道に限らず多くのことに当てはまると思います。学生諸君、迷いの霧を吹き飛ばし、勇気を持って信じる道を突き進みましょう。一生懸命物事に取り組めば、いつかは道が開けてくると思います。皆様のご活躍を楽しみにしています。

アンケート

一、先生の座右の銘がございましたら承りたく存じます

「明けない夜はない」

二、もし合気道をなさつていなかつたら、どのようなことをな
さつていましたか

整骨院の先生、もしくは酪農家

三、長く合気道を続ける秘訣を教えて下さい

一生懸命取り組むことは大切ですが、頑張りすぎて周り
が見えなくなないこと

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい

幼少時代を過ぎた日吉の山（丘）で、毎日棒を振り回
して遊んでいたこと

五、先生のお好きな映画がございましたら教えて頂けますか
「最高の人生の見つけ方」

六、もし差支えなければ、合気道以外の趣味を教えて下さい
旅行と買い物

七、学生に一言お願いいたします

何か障害に出くわした際には簡単には諦めず、一度離れた場所（部外者の立場）から検証してみるのも一つの方法です。場所を変えれば景色も変わります。

荒谷卓先生

強さとは
一生きる意義を示す

明治神宮至誠館館長 荒谷 卓



人にとっての強さとはなんだろうか。いろいろな強さが考えられるが、まずここでは、いやがおうにも強さを求められる武人の強さについて考えてみたい。

とはいっても、これまた千差万別で、人によってとらえかたが違う。

例えば、室町末期から江戸時代にかけての日本武術の達人の逸話を調べあげ、「日本武術神妙記」として編集した中里介山は、武術の達人の序列を大家、名人、上手として表した。

大家には上泉伊勢守信綱（かみいはずみいせのかみのぶつな）と柳生但馬守宗矩（やぎゅうたじまのかみむねのり）、名人には塚原ト傳（つかはらぼくでん）、上手には小野忠明と宮本武蔵を挙げている。上手の二人は、果し合い（決闘）で名を挙げた。名人は、無敗の剣を和平の剣として世に伝えた。大家は、それに加え社会に大きな影響を与える歴史を築いた。

この例を参考に、まずは上手と呼ばれる武人の強さを見てみたい。宮本武蔵が探求した強さは一言で言えば、一人（いちにん）の強さ、であろう。その意味では、同じく一人としての能力を競う個人スポーツと比較しやすい。

とはいっても、スポーツ選手は、あらかじめ決められた試合に向けて最高のパフォーマンスが発揮できるように身体と道具のコンディションを整え、ルールに則って（フェアに）ゲームに勝利することを目指す。

つまり、スポーツ選手が求める強さとは、予定された時と場所で最高のパフォーマンスが出来る強さである。

したがつて、その前提とするコンディションが大きく崩れるような事態、すなわち怪我や病気などに見舞われた場合には、ゲームそのものを棄権できる。また、棄権したことでの「弱い」と

いう評価を受けることはない。

これとは対極的に、決闘での強さは、最悪の状況でも発揮できる力が求められる。決闘の放棄は、戦つて敗れる以上に精神の弱さを露呈することになる。

つまり、武人は、何時いかなるときでも戦える状態を保つ強さが求められる。たとえ病気になろうが、手足が使えなくなろうが力を発揚するためにはどうしたらいいかを探求する。環境も不問である。屋内外、酷寒酷暑、昼夜、雨風等、一切関わりなく如何なる時と場所においても、発揮できる強さでなくてはならない。そして、負けは死を意味する。常時死に直面するストレスに打ち勝てる心の強さが前提となる。

スポーツも、もともとは戦闘技術だったものを競技（ゲーム）化したものが多い。戦闘者が、戦いのために鍛えた力を、他者を殺傷せずに競うことから平和の祭典としての意義を持つた。

元々戦技であつたものを、スポーツとしてルールができると競技化すると技術は精妙に発展する。武道もスポーツ化すると技巧化が進む。

私は、米国の特殊部隊において、真っ暗な中で敵味方が重なり合つて交戦するような実戦下で使うための戦闘射撃を訓練した。これは、攻撃してこない的を相手に、ルールに則りプレイする射撃の競技会とは根本的に異なるものだ。実戦のストレスから開放された環境で競技用の射撃技術をトレーニングしていく競技射撃選手のほうがテクニックのレベルが高い。しかし、競技射撃用の銃と技術は、精妙・巧妙すぎて実戦では使えない。実戦のストレス下に不可欠のタフな強さを兼ね備えていないのだ。

宮本武蔵は、十代で関ヶ原の戦いに参戦したようだが、それは一兵卒としての体験で特別な戦果を上げたわけではない。一人として武を探求し、後に名声を上げたが弟子は少なく、生涯孤独に終わる。

小野忠明は、関が原の戦いが終わり、戦が無くなつた時代に名を挙げた人物である。両者が評価された強さは、果し合いという一人の決闘の中である。

小野忠明は、柳生宗矩や息子の十兵衛、甥の兵庫さえも歯が立たないほどだつたというから、一人の武芸者としてはよほど強かつたのだろう。将軍家指南役にまで推举された。しかし、一人の強さを求めるあまり、殺伐とした性格が災いして誰も近寄らず、将軍家からも咎めを受けて蟄居（家から出ることを禁ずる罰）を命ぜられた。

この二人は、中里介山が評価したように上手ではあつたものの、その強さを見習おうという者は、剣で他者に打ち勝つことだけを求める者に限られたようだ。そのような強さは、社会の強さには貢献できない。

ト傳は、戦国時代、鹿島神宮神官の家に生まれる。通説では、二十代までに戦場の働き三十七度、果し合い十九度。すべて無敗で、受けた傷は矢傷六ヵ所のみだつたそうだ。

ここまででは、前述の上手の範疇であるが、ト傳は、このような殺し合いの強さに疑念を持ち、鹿島神宮に帰り千日の参籠（神域での禊祓）をする。そしてたどり着いたのが「天地の間に立つ人間の世から争いをなくして平和の世を作り出すこと」であった。これこそ鹿島神宮の御祭神「武甕槌神（たけみかづちのかみ）」の教えと悟り、武の探求すべき強さを正しく人々に伝えることが自分に与えられた道と定めた。

ト傳は、人を斬ることを断ち、木剣を背負つて、七十八歳まで全国を廻り歩いた。この間、南朝伊勢国司北畠具教、足利十三代將軍義輝、武田信玄、山本勘助等多くの人々に、人の和をつくり出す鹿島の剣の道を伝えた。

「日本武術神妙記」にト傳の廻國修行の際の逸話がある。

乗り合い六十七人の渡し舟の中、傍弱無人の腕自慢が、乗り合いの人々に迷惑をかける有り様を無視しかねて『自分の兵法は「無手勝流（手を使わなくて勝つ）』と言つて、敵に勝つためではなく、自分の慢心を斬り、悪念の兆しを断つためのもの』と戒めた。『ならば』といきり立つ男に、ト傳はこう答えた。『港は人で混んでいる。川の中州でお見せしよう』。ト傳が船頭に指示して川の中州に船を着けさせると、男は船から飛び降り『真っ向二つに叩き斬つてやる』と罵つた。この時、ト傳はすばやく船頭から棹をとり、船を中州から引き離した。男が『こらどうした！ここへ降りてこぬか！』と叫ぶのに対し、ト傳は『わが無手勝流はこのとおり。さらば』と高笑いしたこと。

ト傳の強さは、世のため人のために尽くす生き方として実践された。そして、人心が荒廃した戦国時代にあって、社会から悪念を取り除き和する強さの種を世の中にまいた。

最後は、大家と評された武人の強さだ。

柳生（但馬守）宗矩は、よく時代劇に出でくるが、製作者の意図によりいろいろな性格に描かれている。いずれにしても、中介の武芸者でありながら、将軍家兵法指南役となり、幕府の政治、行政、司法等の権力を掌握し、一万二千石の大名になつたのは彼ひとりであることは事実だ。

その大任を退いた晩年、宗矩は郷里に戻り柳生の庄の人々と余生を送つた。また、幕府の恣意により自分が約束を守れなかつたために命を失うことになった友の子息と家臣を引き取り、財産を分けて与えて世話をしたことなどを見ると、地位名声を求めた権力欲の強い人物とはいえない。

徳川三代将軍家光が『天下の政事（まつりごと）』は但馬から教えてもらった』と言つたと伝えられているように、日本を統治する位にある将軍にふさわしい人倫道徳「大いなる兵法」を教えたのが柳生宗矩だった。

宗矩は、活人剣という言葉を使って、「剣（武力）は人を殺す

ためにあらず、人を活かすために使うべきもの」との考えを示した。また、友人の沢庵和尚の思想も取り入れ「剣禅一如」を説き、戦場の技術である武術を「武器を取ることを許された武士の人倫道徳を備えた武道へと昇華させた。まさに、和する武の持つ強さを国家の強さとして実現したわけだ。

上泉（伊勢守）信綱は、戦国時代の人である。黒澤明監督の「七人の侍」という映画の冒頭、悪人が子供を人質にして小屋に立て籠もっている所へ、侍が通りかかり、坊主の身なりになつて子供を助けるシーンがある。あれは、信綱の逸話が元になっている。

信綱は、鹿島神宮で幼少より神道を通じて剣を鍛錬した。年上の塚原ト傳に、神武の意義を説き殺人剣を活人剣へと改心させ、柳生宗矩の父・柳生石舟斎宗嚴（やぎゅうせつしゆうさいむねとし）に鹿島の太刀を伝授し「新陰流」を伝える。さらに、正親町天皇（おおぎまちてんのう）に召されて剣技を披露し従四位下を賜り武藏守に任せた。これは、一介の武芸者の剣術では考えられない。おそらくその時、「神の祓い太刀」を奉納したものと思われる。

信綱は箕輪城城主の長野業正（ながのなりまさ）に仕えた。武田信玄との戦いに勇戦し、最後まで主君に忠義を尽くした。長野氏滅亡後、信綱の武勇を絶賛した信玄が、特別の待遇で臣下に取り立てたいと再三にわかつて誘うのを、長野氏以外二君に従わずと態度を変えず、新陰流を普及させるため諸国流浪の旅に出たと伝わる。

その先々で、果し合いの申し出を受けるのだが、一人も殺傷することなく、ことごとく鮮やかに勝利し、柳生石舟斎の他、伊勢の北畠具教（きたばたけとものり）、奈良宝蔵院の胤栄（いんえい）らに剣の道を伝授した。宮本武蔵や小野忠明のように、果し合いの度に相手を殺していたとすれば、柳生宗矩をはじめ、

信綱に教化された各流派の祖も存在しない。日本の武の探求すべき「強さ」、即ち鹿島神宮の御祭神「武甕槌神（たけみかづちのかみ）」の無敵・不殺の武威である和する強さを実際に表すことができる神のような大家だったと言わざるを得ない。

日本古来の武道は、二つ以上のものを比較してどちらが強いという見方はしない。そうでなく、相手と対立せず、神と一体になつた己の全魂を發揮することのみ追求する。誰かを対立者に見立てて、それより強くなるうという強さではない。相手を活かし、相手と共に強くなる、対立の無い、神と一体の強さである。強弱の尺度は無く、自分が神に成つているか成つていなかが問題となる。求めるのは、外にあらわれる強さの進展ではなく、内省による悟りの進展である。相手が強者であれ、雨が降ろうが風が吹こうが、夜であれ昼であれ、怪我をしていようが一切の外的要因に関わりなく、何時如何なる時にも発揚されなくてはならない「待つたなし」の武こそが神の武であり、眞の目標である。

以上のようなことを踏まえ、現在の日本の国を眺めてみよう。国の制度や政策なども、同じような視点で見てみると面白い。例えば電力。コストが安くて、資源の無い日本には最高の電力資源として、いまだに原発が主たる電力源の地位を占めている。スポーツのようにベスト・コンディションが保証されるのなら、それもよかつたかもしれない。

ところが最悪のコンディションに遭遇した。東日本大震災による津波だ。原発は一転して、人々に犠牲を強要し最も高価で処分に途方もない労力と時間がかかる最悪の資源と化した。最高の条件でのみ最高のパフォーマンスができるものは、実戦では使えないことが分かつた。実際の戦いに「未曾有の状況だから戦えませんでした」などという言い訳は通用しない。人が生きていくうえでも、国家が生きていくうえでも、予測

できるものもあればできないものもある。そのどちらにも対応しながら生きていく強さがなくては、生命は絶えてしまう。経済を見てみよう。現在考えられている経済理論もまた、世界規模の天災や人災によつて引き起こされるリスクを考慮したものではない。また競争を原理としている以上、誰もがベスト・コンディションで経済活動に従事できるという仕組みにもつていてない。競争原理の働くグローバル市場では、勝者がルール・メーカーとなり、常に自分に有利な環境を作ろうとするため、その他の者は、勝者が決めたゲームのルールの中でやせ細つていく。国際通貨基金（IMF）などがいい例だ。米国が反対すれば、何も議決できない仕組みになっている。

このような世界に生きる私たちの社会は、競争に打ち勝つといふ発想から離れ、何が起きても生きていけるタフな強さを準備しなくてはいけない。

日本人は、今まで、地震や津波、火山噴火など過酷な天災や、南北朝時代、戦国時代、明治維新という全国規模での内乱のような人災の荒廃した状況から人々が協力して、幾たびも社会を復興し発展させる粘り強い強さを發揮してきた。どんな酷い荒廃に見舞われても、人々が一致団結して努力すれば、必ずや立ち直れるという社会観や自然観があつたからだろう。

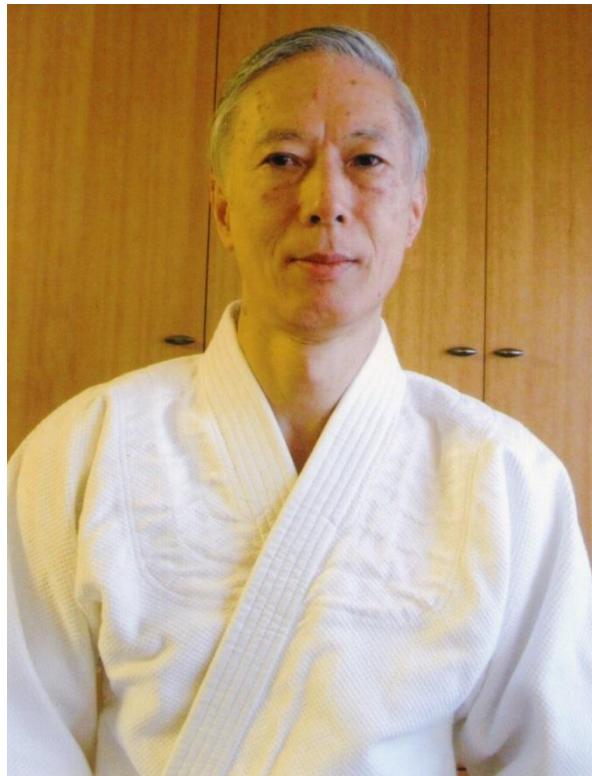
その粘り強さは、苦楽を共にする和の伝統文化に根ざしているものと思う。

歴史上の武道の名人・大家がたどり着いた強さもまた、「和する強さ」であり「助け合う強さ」であった。日本人は、自治力、経済力、武力、その他あらゆる力を、競争力としてではなく、和して助け合うための力として結集すれば、世界に何が起きても、これまでのよう粘り強く復興しさらに発展していくはずだ。

日本人の「和する力」、「助け合う力」が、来るべき世界的危機から人々を救済する強さを持つていると信じたい。

山田高廣先生

私の稽古歴



昭和41年に大学に入学し、東京大学合氣道部で稽古を始めてから、丁度今年が50年目にあたる。随分長いこと稽古してきたことになるが、社会人として仕事をしながら、50年間同じペースで稽古をしたわけではない。仕事が忙しくて稽古が出来ないことも当然あるし、また警察庁という役所に入つたので東京と地方を往つたり来たりという転勤生活を30年余続け、東京に落ち着いたのは50代半ばからである。従つて稽古を続けるに恵まれた環境にあったわけではない。ただ、昭和48年秋に明治神宮至誠館が出来たので、東京では大学と合わせて稽古の拠点が2つあつたことは恵まれていたと言えよう。

というわけで、稽古をするに不利な点も多い中で続けてきたことを自分なりに振り返つて、後進の諸君の参考に供したいと思う。

何故稽古を続けてきたかと言えば、当たり前のことがら興味が続いたからである。何故興味が続いたかと言えば、自分なりの問題意識があつたからである。もつともこの問題意識といふのは明確なものである必要はなく漠然としたものでも構わない。特に初心者のうちは武道・武術に対する認識が浅いのだから漠然としていて当然である。

私の場合は、大学に入つたら何か武道をやろうと漠然と思っていた。ただ剣道と柔道は子供の時からやつている者も多いので、スタートラインが同じのにしようとは合氣道部にしたのである。同期には一人だけ養神館の初段を持つている者がいたが、あとは皆初めてであった。新入生のうちは、受け身を覚え、上級生を真似て技を覚え、体力を強化するのに精一杯であった。夏合宿にはあまり体調が良くなくて行つたので、2日ほどは食事もあまり出来ず、足の親指の生爪を剥ぐし散々であつたが、

合宿終盤にはなんとか体調回復したのであるから、若いということは恐ろしいことである。

だから新入生としては平均的であつたと思うのだが、どうい

うわけか1年の秋の駒場祭（大学祭11月開催）のあと駒場の主将に指名された。東大の場合、キャンパスが本郷と駒場に分かれ、1、2年は駒場³、4年は本郷で別々に稽古し、週に1度本郷生が駒場に来て稽古指導をしていた（今は全體での稽古の機会は増えている）ので、駒場の主将がいるわけである。主将という責任意識もあり、それまでよりは熱心に稽古するようになり、2年生からは本郷の夜の稽古にも顔を出すように努めた。

そういうことで2年の半ばからは体力もかなり充実してきたのだが、反面疑問も湧いてきた。端的にいうと、稽古の技は効くのかという根本的な疑問を漠然と持つようになつたのである。例えば片手持ち入り身投げである。体力のある相手が腰を決め真剣に力一杯掴んでくるのを崩すのは、当時の学生レヴェルでは難しく、瞬発力に頼りタイミングを計つて、スポーツ的な体当たりで飛び込んで崩すというようなことにならざるをえなかつた。

臍下丹田を心身のバランスの中心とし、胸部を柔げ肩肘の力を取つて動くという武術的な心身に思いが至らなかつたし、そういう稽古をしていなかつたのだから仕方がない。当時は今ほど武術書が出版されていなかつたので情報量も少なかつたのである（もつとも稽古のレヴエルが低いのに頭だけ解つたつもりになるのは始末が悪いのであるが）。しかしこれはどうも違うな、別のやり方がある筈だという思いは常に持つていた。

3年になつて本郷に進学するとすぐ大学紛争が勃発熾烈化し、ほぼ1年に亘つて授業がなかつたので稽古する時間はたっぷりあつた。また、それ以前に2年生の初めくらいから、鹿島心流の剣術の稽古を、合気道部として取り入れるようになつていた。これは私にとって武術理解のうえで大きな力になつてきたのだ

が、当時は始めて日が浅いのまだ認識も未熟で、剣は剣、体術は体術と外形的な違いに惑わされていた。當時も合気道は剣の動きという言われ方があつたが、何が剣の動きか明確な説明もなかつた。

また、合気道は円の動きといわれ、その例として正面うち入り身投げで、相手の首筋に手をかけて自分の回りをクルクルと水平に回すような投げ方があるが、一寸足腰の良い相手はあれでは崩れないでの、意味が違うのではないかと思つていた。

或る時他大学との合同稽古で、思いついて、水平に回すのではなく、相手の肩に手を当てて自分の方に引き崩すように下に引いたところ、思いのほか良く効いたことがあつた。他の相手に試しても効いたので、垂直の動きが効果的であることに気が付いたのである。さらに試していくうちに、力まかせに下に崩すのは駄目で、腕を力まず膝を緩ませ、体重の落下の勢いが相手の肩にかかるようすればよいことがわかつってきたのである。要するに重力の効果的利用である。これを敷衍すれば剣も同じで、剣に重みが出るように如何に体を使うかということである。勿論当時はそのような理論的認識に達したわけではなく、一つ一つの技のコツとしてわかつてきたということであるが、それを積み重ねてより普遍的な認識に繋げていく端緒は得たわけである。

紛争もあつて大学には5年いたので、普通よりは稽古は充分できたことになる。剣の稽古もしてきたので、卒業後の稽古としては剣と合気道の共通性の追及がテーマかなと漠然と感じていたけれども、何が何でも稽古を続けるとまでは思つていなかつた。このころは力まかせの稽古から抜けきつていなかつたし、丹田への集中ということも本当にわかつていなかつた。

そんなある意味中途半端なときに明治神宮に至誠館が出来、指導層も手薄なこととて、私も休日中心とはいえ講師として手伝うことになつたのは、稽古を続ける上で大きな意味をもつた。

講師は転勤で短期で辞めたのだが、東京に戻つて居る時に至誠館に行けば指導陣の一角的になつていたので、ちゃんとしたことが教えられるように、自分の現状を批判的に判断して問題意識を持たざるをえないからである。

丹田ということを眞面目に意識するようになつたのも至誠館が出来てからである。四股を踏むというような下腹に集中力を増すことを稽古に取り入れているうちに、ある時稽古の帰り道に、歩いているといつもより地面が近く感じられることがあつて、そのころから丹田を体の感覚として意識できるようになつた。丹田といつても胃や腸みたいに体内に器官として存在するものではない。心身が呼吸のあり方を含めてある状態を作つた時に感じとれる体内感覚で、丹田をバランスの中心にして動くことが、武術的に理にかなつた動きになるという機能をもつのである。心身の状況によつて意識出来たり出来なかつたりする体内感覚への気付きは、外ではなく体の内部（心の内面も含む）が重要であるという武術の奥深さへの気付きもある。

このようなことに気が付きだすと、稽古の関心は、合氣道をやるとか鹿島神流をやるというより、合氣道と鹿島の剣を通して我が國の武術を考えるという方向になつてくる。それで、地方に居る時は、若いころの一時期を除いて地元の合氣道の道場にはいかず、剣の素振りを中心の一人稽古をしていた。一人稽古で集中力を切らさずいるのはなかなか大変ことで、それがわかつただけでも収穫である。今は木刀でも真剣でも同じであるが、当時は素振りは真剣として集中力が途切れぬようにしたものである。

また、地方に居る時は、基礎体力維持に、出勤前に1キロ5分位のペースで5キロほど走るのを習慣としていた。地方は出勤に時間がかかるし、道も走りやすいのである。北海道のような雪国でも慣れると、凍つた路面を普通のジョギングシユーズで走れるのである。

剣に戻ると、素振りをするうちに、剣は腕で振るのではなく体の動きで振るのであり、腕は体の動きの伝達器であり増幅器であることがわかつてくる。この時腕の付け根の肩と肘が力まず、逆に小手には力が出て、握りは小指、薬指中心に手のひらと柄が一体化するようにする。こうすると剣先に威力を出すことが出来る。このような手の内を体術に応用したのが合氣道の手の内である。

平成14年に退官し東京にいるようになつた。仕事はしているが、警察当時よりは時間的に余裕が出来、前より稽古に専念できるようになつて現在に至つてはいる。この間平成16年から至誠館の師範、昨年から東大の師範をしている。師範をするにあたり原則としたことは、自分がその時出来ていることを指導するのであり、自分が心身の実感として把握している以上のことは言わないとことである。自分の限界を誤魔化さずに見つめながら、その時々の問題意識をもつて稽古してきたので、流石に年齢を感じるようになりつつも、それなりの向上はしたよう思う。我が國の文化の柱のひとつは修業である。これからも生涯修行で稽古をしていきたいと思つてはいる。

以上であるが、問題意識について付言しておくと、大きな問題意識（私の場合は合氣道と剣術の共通性）は直ぐに答えは出ない。長い目で見なければならない。稽古をしていれば、もつと具体的な問題がいろいろ出てくるはずである。それらを地道にやつてはいるうちに、大きな問題意識の枠組みの中で段々に、場合によつては思いもかけない形で繋がってきて、向上し認識も深まつていくのである。

一、先生の座右の銘がございましたら承りたく存じます

座右の銘は特にない。この世界はひとつの言葉で括れる程単純ではないと感じている。好きな言葉はある、不易流行とか武士の情けとか。

二、もし合気道をなさつていなかつたら、どのようなことをなさつていましたか

理屈っぽい言い方になるが、合気道をすることにしたからしているので、決めたときに他の選択肢は排除しているわけである。

三、長く合気道を続ける秘訣を教えて下さい

本文参照のこと

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい

生まれ育つたのは東京池袋駅西口から10数分程度のところで、故郷のイメージは余り持てない所である。それでも小さい時は池袋もビルがなく、原っぱがあり、冬には雪をかぶつた富士山が見えたことを覚えている。

五、先生のお好きな映画がございましたら教えて頂けますか

若い頃は自分の生まれる前のも含めて結構映画を見たのだが、このごろは殆ど見ていない。従つて昔のものになつてしまふが、邦画では黒沢の七人の侍、隠し砦の三悪人、洋画では戦前の仏映画大いなる幻影、キャロル・リードの第三の男等である。

六、もし差支えなければ、合気道以外の趣味を教えて下さい

開幕、読書は歴史、人文系を中心とする型

七、学生に一言お願いいたします

本文にも書いたが、修業ということは我が国の文化の柱である。卒業後も修業としての稽古を置かれた立場の中でする人が、ひとりでも多く出て欲しいと思う。

佐藤忠之先生

価値観について
(NPO) 日本合気道協会師範 早稲田大学合気道部師範
佐藤忠之



月刊誌「秘伝」編集部提供

十人十色、百人百色とは千差万別の個性を指す耳馴れた言葉。

兄弟姉妹でなくとも世間にはよく似た人が何人かいるとも言われますが、よく観察すれば必ずやどこかしら差異が在つて然るべき。ゆえに一人一人、違うからこそ、その存在価値も高まり、尊厳も輝くのでしょうか。

さて、個人個性があれば人それぞれに価値に対する考え方も千差万別となります。つまり、心の持ち方や、考え方も千差万別。それなら、もし個人がそれぞれの個を主張して自由を希求したとしたらどうなるか？

私達は社会の中で生きて行かねばならない以上、個人の欲するままの際限なき自由は、ときに一方で他の自由を侵害すると言う相対性の上にに在ります。つまり、社会に生きる中で、個人のあくなき欲求と自由追求は、ときに抵抗や妨げや拘束を覚えます。

ゆえに我々は社会を生きる上で、お互いが自由を享受し合えるための知恵として、「規律」と言うものを生み出し、それを公共化し道徳化して来ました。人の叡智の産物「法治社会」の生まれた歴史ががここにあります。

さて、私が大学三年生のある日、恩師である富木謙治先生の御宅の一室でこんな指導を受けました。かれこれ40年近く前

の話ですが、私には今も脳裡に鮮やかに、昨日の事のように耳朶に残っています。

皆さんの学生生活に及ばず乍らも何かの参考になればと思い、ここに紹介させて頂きます。

それは「価値観」をどう持つか?と言うお話をしました。「価値」とは何か?真の価値とはいつたい何か?この考えを展開させて、武道は何のために在るべきか?武道の価値とは何か?そしてさらには人生の価値をどう求めるべきか?

すなわち「価値観の持ち方」、これによつて人類は歴史の中で争いも起こし、また争いを治めても来たのだよ……と言われました。人間が人間として生きてゆく上で「価値」についてじっくりと考え「価値観」を静思熟考する事はたいへん重要な課題である事を、このとき富木先生から私は教わりました。そして、人生に於いて「価値」についてじっくりと考える事は学生時代が最適であり、また、その時間を持てる事は学生ゆえの特権でもある、と言われました。

富木謙治先生の学生時代の卒論テーマは「戦争論」でした。穏やかな性格の富木先生が「戦争論」?「平和論」ではないのですか?と私は思わず聞き返して仕舞いました。

富木先生のお答えはこうでした。平和が紛争戦争の無い状態であるなら、平和を希求するために先ずは戦争の回避政策が必要で、そのためには戦争の原因を知る事が肝要であり、そもそも戦争とは何ぞや?について研究しなければ、ただ漠然と平和を求めてそれでは本質に近づけないし、觀えない。

つまり、富木先生の卒論テーマ「戦争論」とは、すなわち裏返せば「平和論」だと言う事でした。「戦争=暴力」「平和=武力」と言う公式で「限定のない暴力から身を守るのが武道」と

その技術的な定義をされ「然し、その技術の行使は、あくまでも人道優先、人命尊重の武力こそ眞の武道」であると、民主主義下に於ける武道の在り方のその精神にも強く言及されました。

富木先生の説かれた合気道の稽古には「乱取り法」が考案され「試合競技」が導入されていますが、それは練習法の一環であり、「試合競技」そのものは全体稽古100%のうちの10%ほど。90%は約束色の強い定型形稽古と、独自の自由形稽古の「乱取り」を中心とする基本稽古にあります。富木先生の合気道というと、「試合競技」がすぐに取り上げられます。が、「試合競技」も稽古の一環であつて、狙いは「態度の真剣の場」である試合競技を通して、実力を客觀化し、競技の場を通して、搖れ動いた自身の心を觀てはそれをコントロールして精神修養を図る、教育主眼の合気道を目指しています。これは全国学生合気道連盟に在つては、独自の稽古形態ですが、ご理解頂ければ幸いです。

合気道の技は、精神修養のための崇高な精神を体していくと私は思います。学生の皆さん、合気道を学ぶ価値、人として生きてゆく人生の価値、学生の特権であるその時間を有意義に楽しんで下さい。そして大学の枠を自由に乗り越え、学生同士胸襟を開いて「価値とは?」存分に静思して求めてみて下さい。

最後に、それぞれの大学で日頃精進に励まれている皆さんの学生活に、合気道が有意義に生きる事を祈念申し上げます。

アンケート

一、先生の座右の銘が「さいましたら承りたく存じます

〔提一燈 行闇夜 勿憂闇夜 只頼一燈〕

佐藤一斎 言志録

(一燈を堤げて闇夜を行く 闇夜を憂うる勿れ ただ一燈
を頼め)

二、もし合氣道をなさつていなかつたら、どのようなことをな
さつていましたか

書画に關わるような仕事を求めたかもしだせんネ。

三、長く合氣道を続ける秘訣を教えて下さい

好奇心と追求心でしようか?

四、先生の故郷の思い出をお聞かせ下さい

休みになると友達と浜松城の杜や原っぱを駆け回つたり、
くわがた虫を取つたり、天竜川支流の清流や遠州灘の海辺
や浜名湖に遊んだり、或いは、時を忘れて終日絵を描いて
楽しんだりしていました。小学二年生から平日夜は専ら柔
道の稽古でした。

そんなわけで、大好きな?勉強は当然二の次三の次の後
回しでした(笑)。

五、先生のお好きな映画が「さいましたら教えて頂けますか

「雨上がる」黒澤 明

六、もし差支えなければ、合氣道以外の趣味を教えて下さい

七、学生に一言お願ひいたします

一期一会。友達を沢山作つて下さい。そして大切に!

酒井進之介先生



ご挨拶

この度は連盟誌第44号を刊行されますこと、誠におめでとうございます。

先ず、私自身の自己紹介より行わせて頂きたいと思います。平成6年に成城大学合気道部に入部して初めて合気道を志しました。その後、平成12年に大阪の昭道館道場に入門。以来、成山哲郎師範の下で研鑽を積ませて頂き今日に至っております。稽古方法の垣根を越えて技の交換をすることは自らを更に深く知ることに繋がると考えております。本連盟を通して多くの学生が良いものを吸収され、今後の稽古に活かされることを願っております。

酒井進之介

三、加盟校紹介

金沢大学体育会合気道部

主将作文



幹部、主将になつて二ヶ月ほど経ちました。主将になつてみて、「主将とはどうあるべきか」ということについて考えることができます。僕は当初、主将になつたら自分の中で何かが劇的に変わるような気がしていきました。先代の主将の先輩にはそういう方もいたそうですが、なにより僕のような愚者がこのまま主将になれるはずがないと思っていたのです。ところがどっこい何も変わりませんでした。(ここに残念主将が誕生したのです。人間そう簡単に変わることが出来たら苦労しないのです。努力と覚悟なしに変化は不可能だと身をもつて感じました。また主将をやつてみると、自分が周囲を引っ張るわけでも、意見を調整するわけでもないのです。まして自分の行動で示すこともないのです。何をしているのかと思う人もいるかもしませんが、答えは簡単、何もしていないので。「どうかしてるわ」とよく言われます。頼りになる同期の皆さんに感謝の日々です。先輩方は「やりたいようにやつていい」と言われているので、「主将としてどうあるべきか」ということよりも「自分が主将としてどうありたいのか」ということを考えて、自分なりの主将の形を探していきたいと思います。

主将 関口航

二、創立
部役員

昭和49年

名譽師範 田中茂穂

武學師範 田尾憲男

師範 村角美登

師範代 藤沢博亮

監督 坂井健一

三、部員數 稽古時間

35名 (男子23名, 女子12名)

月 19..20..20..50

水 19..00..20..30

木 18..00..20..00

土 13..00..15..30

14..00..15..30

4..00..00..00

4..00..00..00

(第5体育室)

五、道場の広さ
六、道場

金沢大学角間体育館二階柔道場

七、年間行事

2月	1月	1月	1月	1月	4月	5月	6月	8月
春合宿	寒稽古	納会	新歓演武会	北陸地区国立大学体育大会				
京都遠征		東京遠征		夏合宿				
(幹部交代)		金大祭演武会						

関西福祉科学大学合気道部



主将作文

主将 田邊和也

初めまして、関西福祉科学大学の主将田邊和也です。今年で創立18年目となり、新一年生も5名加わり計14名で活動しております。

一年生は運動部を経験していない子が多く、毎日が新しいことの連続であり、戸惑いもありますが元気に参加しております。二年生は後輩を持つということで、自己の練習に加え後輩への指導も行つており、先輩としての自覚が芽生えてきております。三年生は部の運営にも携わってもらい、自分たちや後輩が練習に集中できるよう環境を整えてくれています。このような後輩たちに支えられ、我が部は成り立つております。

我が部では、部旗にも書かれている専心致志という精神の下、練習に励んでおります。この専心至志の専心は、研究・学問などに心を集中させ熱心に行うという意味があり、致志は目標・目的を決め達成させるという意味があります。

私たちとは合気道の型稽古・乱取りの研究・練習を部員全員で行い、互いに切磋琢磨して練習をしております。また、この専心致志は合気道の練習にとどまらず、学生の本業である学問においても助け合える関係を築くように、横のつながり・縦のつながりを築けるよう日々努力して過ごしております。

現在、我が部が目標として取り組んでいることは、基礎の動作・受身を正確に習得させ、怪我をしにくい状態を作ることです。練習・試合で怪我をすることは多々ありますが、その怪我が原因で合気道のパフォーマンス能力が低下してしまうのでは、更なる怪我につながります。まずは怪我をしない体へ、また怪我をしてもパフォーマンスが低下しないような体に近づけるようしております。

部紹介

- 一、大学名
二、部の正式名称
三、創部年
四、部役員

関西福祉科学大学
関西福祉科学大学合氣道部
平成9年

師範 成山哲郎
顧問 鎌田次郎
監督 小尾貞夫
主将 田邊和也
副将 山田志穂

- 五、部員数
六、稽古時間

13名
火・木 18:30~20:30
土 約150畠 9:00~11:30

- 七、道場の広さ
八、道場

関西福祉科学大学
新総合体育館 D.O.夢
2階武道場

- 九、年間行事

3月	1月	1月	4月	6月	7月	9月
春季合宿	稽古初め	幹部交代	新入生勧誘・お花見等親睦会	新入生歓迎会	オープンキャンパス	夏季合宿

京都産業大学体育会合氣道部

主将作文

主将 五百木俊晴

まずは、日頃より京都産業大学体育会合氣道部の活動に御理解と御尽力をいただいております、先生方をはじめ、全日本学生合氣道連盟の皆さん様にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

合氣道という一つの同じ武道を志す各大学合氣道部が、流派や道場の壁を越えて各大学の親睦をはかるべきであるという本団体のような団体は他の団体には見られない稀有な団体かと思います。しかし元をたどれば、合氣道は植芝盛平翁が作られた一つの武道であるわけですから、流派が違うといえど当然にやっていることは同じ合氣道です。その技の手法や捉え方や、合氣道についてのお考えは各先生が解釈し、創意工夫されたものですから当然差異が出ます。だからといって、これを排除する道理はないとは私は考えます。いつも稽古している技とは違うなと思つても、そこから学ぶべき事が、かならずあると思うからです。そこで学んだことを自身の技にできるかが、大切なのだと思います。

勝浦での研修会に私は皆勤ですが、毎年違った発見、楽しみがあり今でも各回鮮明に覚えております。まず、一年生の頃は知り合いもほんдинない状況でした。ですが、すぐに皆と意気投合し稽古に、準備に、圧倒されながらも濃密な時間を過ごすことが出来ました。稽古では、普段慣れない技に困惑している私を各大学の先輩方に丁寧に御指導いただきました。そして一年生の鬼門である、コンペでの芸出しでは、一年生の参加が私だけでしたので全大学中唯一単身でネタを披露し、その悲惨さたるや筆舌しがたいものだったことを今でも覚えております。二年生になると皆新しくもらつたばかりの黒帯を締め、先輩ら



しく成長し、三年生になると幹部として皆が年を追うごとに逞しくなると同時に、より強い仲間意識が生まれました。他流派の先生方の御指導を仰ぐことや、学生間の親睦を深めるなどこういった経験は全日本学生合気道連盟だからこそできる貴重な経験だと思います。

最後に、全日本学生合気道連盟の益々の発展を祈念いたしますとともに今後ともなお一層の御指導並びに御鞭撻の程宜しく御願い申し上げます。

部紹介

二、	部の正式名称	京都産業大学
三、	創部年	1965年
四、	部役員	部長 師範 ヘッドコーチ コーチ 松尾正純 宇都宮正敏 菅原宏太 橘龍成
五、	部員数	25名(男子20名、女子5名)
六、	稽古時間	月17..00..20..00 火18..00..30..00 水13..00..00..00 木17..00..00..00 金13..00..00..00 土17..00..00..00 曜13..00..00..00
七、	道場の広さ	77畳
八、	道場	京都産業大学総合体育館練習室2
	(正規練習) (自主練習) (正規練習) (自主練習) (正規練習) (自主練習)	

京都産業大学総合体育館練習室2

2

七、道場の広さ
八、道場

九、年間行事

合氣道講習会

海外支部合同練習、龍谷大学との合同練習

新入部員歓迎の宴

夏季合宿

全日本学生合氣道総合演武大会

関西学生合気道演武大会

全日本養神館総合演武

創部50周年記念式典

新幹部襲名披露の宴
寒稽古、幹部送別の宴

春季合宿

卒業演武会

三

近畿大学合気道部

主将作文

主将 森大樹



近畿大学体育会合気道部51代目主将の森です。2、3年前は新入部員が減少傾向にありました。今年は去年同様多くの後輩に恵まれ、現在34人で練習を行っています。今年は女子部員が5人と例年より多く入部してくれました。普段週5日練習しており、月曜日、水曜日、金曜日は16:30から2時間練習を行っています。火曜日、木曜日は同じく16:30から2時間練習を行いますが、道場が長く使用できるためその後に3時間の自主練習時間があります。練習内容は準備運動、基本動作、受け身等を行い、型稽古、乱取り稽古をそれぞれ1時間程度行っています。自主練習時間では昇級の審査内容や乱取りの練習、演武を合わせたりしています。基本は学生のみで練習を行っていますが、休暇中の練習などはOB、OGに指導していただいている。練習はメリハリをつけそれ以外は和気藹々としています。

去年は全日本学生合気道競技大会の乱取り女子団体で優勝という成績をのこしたため今年も連覇を目指し練習に励んでおります。また、乱取り男子団体は4位という結果だったので女子に負けないよう上位を目指して頑張っています。演武競技の方では、先輩が去年の全日本大会で優勝という結果を残されたので自分たち後輩も追いつけるように頑張ります。特に主将の私はここぞという場面で緊張する事が多いので、精神的にも肉体的にもさらなる向上を目指して残りの部活で過ごす時間を大切に使つて行きたいと思います。

部紹介

- 一、大学名 近畿大学
- 二、部の正式名称 近畿大学体育会合気道部
- 三、創部年 現在51代目
- 四、部役員 成山師範、井筒顧問、佐々木顧問、多田部長、伊藤監督、
- 五、部員数 34人
- 六、稽古時間 月水金16..30..18..30
火木16..30..22..00
- 七、道場の広さ 約60畳
- 八、道場 新入生歓迎会
- 九、年間行事 関西大会
夏合宿
全日本大会
幹部交代式
卒部式
春合宿

3月	2月	1月	10月	8月	6月	5月
春合宿	卒部式	幹部交代式	全日本大会	夏合宿	関西大会	新入生歓迎会

國士館大學合氣道部



主将作文

ほかの武道から合気道へ

主将 中島雄大

國士館大學合氣道部主将の中島です。

自分たちの大学で稽古している合気道には、競技すなわち乱取りがあることで実践的に合気道というものを学べているのかなと思うことがあります。

僕自身、大学で合気道を初めようと思う前は空手道と剣道をやっていました。そのお陰という訳ではなく、類似する技やいままで習っていた武道の技術が応用出来たりなど利点につながる所が多くありました。それと同時にデメリットも多々ありました。それが…。

その中で特に僕自身が応用出来た技術とは、間合いの取り方、体の捌き方だと言えます。なぜなら、空手道では両腕による突きと蹴りが主な技であり、それらのコンビネーションを手を使つて捌く、体を使って捌く稽古をしていたお陰で抵抗なく乱取りがある合気道は受け入れることが出来ました。

また、この合気道特有の短刀突きがある事を関しては、剣道の理合と空手道の突きのスピードから多少は苦労しましたが、元々の下地があるお陰かいいものを持っているとOBの方に褒めて頂いた記憶もあります。つまり、他の武道をやつていたとしてもそれらの特徴を活かして合気道の技術に役立つた部分も大きいと言えますし、逆にこの技術は合気道では不適切であつたという部分もあつたと学べました。

僕自身が一つ後悔している所は柔道やレスリングなどの組み技系格闘技をやつていたら、もう少し早い段階で試合の成績が良いものになつたのではないかということです。なぜなら、柔道やレスリングでは相手との間合いはとても近く、足腰の切り

返しや技の考え方などを学ぶことが出来たのかなと思えるのです。

最後に、僕たちが大学で学ばせて頂いている昭道館合気道では、他の武道から転向したとしてもその人の努力次第では合気道というものに変化させる事が出来るものなのではないかなと思えます。

部紹介

六、年間行事	三、部員数	二、部役員	一、創部年
1月	15名	部長 倉田光明	1963年
2月	水・木 16..00..19..30	副部長 大森竜一	
3月	火・金 19..30..21..00	監督	
4月	昭道館武藏野		
5月	国土館大学町田キャンパス第一柔道場		
6月	世田谷キャンバス		
7月	マイブルゼンチュリーホール2階		
8月	寒稽古		
9月	強化練習		
10月	春期合宿		
11月	新歓コンバ		
12月	関東学生合気道新人競技大会		
1月	関東学生合気道競技春季大会		
2月	前期納会		
3月	強化練習		
4月	夏期合宿		
5月	関東学生合気道競技春季大会		
6月	新歓コンバ		
7月	関西学生合気道競技大会		
8月	昇級昇段審査		
9月	強化練習		
10月	関東学生合気道競技		
11月	個人選手権大会		
12月	全日本学生合気道演武大会		
1月	全日本学生合気道競技大会		
2月	社会人大会		
3月	関西学生合気道新人競技大会		
4月	昇級昇段審査・後期納会		

上智大学体育会合気道部

主将作文

主将 佐川巧

押忍。上智大学合気道部主将の佐川です。たぶん、これが掲載される頃には元主将になっていることだと思います。つまり主将になって一年が経とうとしています。光陰矢の如しとはこのことだと体感しています。



さて、合気道を初めて、4年目になりました。一年生の頃にはてんでわからなかつた技や動作をドヤ顔で指導している自分の立場を考えると、なんとも感慨深いよう、偉くなつたような錯覚に陥ります。ここは、「相手との繋がりを切らずに詰めていくために「云々」なんて言われたあの頃は、「繋がりってなんだよ、掴んでるじゃん、つながってるやん、どういうことなの?」といった心境だったはずなのに、今ではそれを平然とした顔で言う側に回っています。最近の若者は、と言われてきた若手がいつの間にか同じ愚痴を言つているような構図ですね。初心を忘れないという格言は、あまりによく聞く言葉だけれども体現することは実に難しいと思いました。わかるようになると、わからなかつた時の感覚や感情を忘れてしまう。わからない人たちに共感できなくなつてくる。そうならないよう、と心がけでもやっぱりわからない人が求めているような答えには至らない。わかつたかもしれないと思えた時の感覚があるその一瞬は、この感覚を忘れずに伝えられれば次の人はもっと早く理解できるはずだ、と思うけれども気づけばその感覚はなくなつてしまい、さも最初からすぐにできるようになつたと錯覚してしまう。初心を忘れない、とはわからない感覚を忘れないということなのだろうと思うと、やっぱりそれは文面よりもはるかに難しいことだと体感しました。わずか4年でこんなにも感じるのだから、生涯を一つのことに捧げてその答えに至れた人は、本当に

すごい人達だったのだろうなと思いました。

わからることはまだたくさんあるけれど、だからといつてわかつてしまつたものにわからない感覚を思い出させることもできないなんとも歯がゆい感覚ですが、それでも初心を覚えていようとすることは大事だと信じて、これからも精進していきたいと思います。

部紹介

一、大学名	上智大学
二、部の正式名称	体育会合氣道部
三、創部年	1961年
四、部員員数	千田務先生
五、稽古時間	28人
六、道場の広さ	地下柔道場
七、道場	約50畳
八、年間行事	新歓上南戦
九、年間行事	月水金 土日
2月	1月
1月	2月
10月	9月
8月	7月
6月	4月
合宿	合宿
審査	審査
学連大会	演武大会

成城大学合気道部



主将作文

心境の変化

主将 野口宏輝

私は幼いころから格闘技に興味を抱いていたが、小学生から高校生までは大好きなサッカーに打ち込んでいた。だが大学生になつたら、何か新しいスポーツを始めてみようとを考えていた。そこで目にとまつたのが合気道部であった。週5日間の練習をほとんど休むことなく合気道に打ち込み続けていると、いつのまにか自分は3年生になっていた。そこからはあつという間であつた。新入生の指導を経て暑い夏の練習を乗り越え、ひと月ほど経過すると交代の時期を迎えていた。私の同期は非常に少ない。しかしこれから部を運営し、中心となつていくのは我々であった。「主将に就き部をよりよくしていきたい」という思いが芽生えていた。そうして私は主将に就任したが、練習の指揮を執ること、部員たちの前で話をする機会が増えたこと、多くの申請書類に自分の名前が書かされることなど、様々な場面においての変化があった。しかしながら、最も大きなそれは、部員全員から自分が見られているという意識を持ち始めることであつた。指揮を執ること、技を見せるのこと、話すこと、すべて見られている。自分の行動、言動の一つ一つをそう感じながら行うようになつた。これは今までにない大きな変化であつた。これまでにただ、自分のことだけを考え練習をしていればよかつたし、振る舞いひとつをとつても後輩からの目を気にしたことにはほとんどなかつた。私が主将に就任して最初の練習の時、そのことに初めて気づいた。今思うと皆私が1年間、部の先頭に立つてやつっていく人物に値するかどうかを判断していたのである。私が主将に就いてからかなりの月日がたち、また、残りの学生生活もそう長くはない。現在において、後輩をはじ

めとする部員たちが、私についてどう思っているのかなど知る由もない。だが残り少ない合気道部としての活動。これだけははつきりと言える。後輩、同期、そして自分が納得できる引退を迎えることができるよう最善を尽くす。そう思える主将としての今の心境である。

部紹介

四、 部役員	三、 創部年	二、 大学名 部の正式名称	一、 大学合氣道部
五、 部員數	六、 稽古時間	七、 道場の広さ	八、 道場 年間行事
昭和41年	成城大学 成城大学合氣道部	成城 大學	成城大学
師範 部長 監督 小松 新垣 酒井 成山 哲郎 進之介 紀子 正治	21人 火・水・木 日 土 65畳 成城 大學 大道場・成城大學第二道場	21人 火・水・木 日 土 65畳 成城 大學 大道場・成城大學第二道場	21人 火・水・木 日 土 65畳 成城 大學 大道場・成城大學第二道場
3月 2月	4月 5月 6月 7月 9月 11月 1月 2月	新歓 新人戦 昇級昇段審査 春季関東大会 前期納会 夏合宿 昇級昇段審査 全国大会 秋季関東大会 関西新人 昇級昇段審査 春合宿 後期納会 昇級昇段審査	新歓 新人戦 昇級昇段審査 春季関東大会 前期納会 夏合宿 昇級昇段審査 全国大会 秋季関東大会 関西新人 昇級昇段審査 春合宿 後期納会 昇級昇段審査

専修大学体育会合気道部



主将作文

合氣道部に入つて

三年次 星野航

私はまだ二十年ほどしか生きていないが、今までの自分を振り返つてみると、私はいつも様々な出来事から逃げてきたようと思う。誰でも、辛いことや苦しいことは嫌だし、やりたくはないだろう。勉強然り、運動然り。中でも、私はそれのこと、特に責任の伴うことからは徹底的に逃げてきた。責任が伴つてはいるという重圧に私は耐えられない。何故か、メンタルが豆腐だからだ。しかも、逃げてるからメンタルが豆腐のまま。そして逃げ方が上手くなり、さらに責任の伴うことを避けるという悪循環。そんな状態で大学に入った私は合気道部に勧誘された。私を勧説した先輩は笑顔で人当りのいい人だった。部の話を聞いてもいい部活だったので私はこの部活に入ることにした。そして私の考えは間違っていたと痛感した。まず、私を勧説した先輩は一番厳しかった。統制補佐という役職らしい。とても怖い、あの笑顔は何だったのだろうか。次に広い道場を私と同期二人と毎朝掃除しなくてはならなかつた。しかもその同期ふたりは諸事情によつていなくななり、先輩が手伝ってくれるとき以外は自分一人でやることになった。まだまだ他にもあるが切りがないので省略するが、一番辛かつたのは「前四」という受け身をひたすらとり続けるペナルティだつた。狂つてるとthought。さらに合宿では千回まわるときた。本当に狂つてるとthought。なので自分に甘い私が辞めるのは仕方ないと思う。しかし、私は辞めなかつた。あの統制補佐の先輩が恐くて言いだせなかつた。此处でも豆腐メンタルのツケがきた。その後は、入部したのだから最後までやろうと諦め、一年難用を、二年になり後輩の教育と少し責任の伴う仕事を、そして「前四」を含めた辛い

稽古をと私のメンタルを容赦なく削つていった。そのおかげかメンタルが少し強くなつた気がする。それからなんだかんだで三年になり、この頃にはこの部活に入つてよかつたと思えるようになつた。入らずに社会人になつていたら間違いなく潰れていただろう。この三年間は私にとって本当に貴重な期間だといえる。逃げられない辛さがないと私のような逃げる人間は成長できない。なので私はこの部活に感謝します。この部活に入れて頂いて本当にありがとうございます。

部紹介

二、大学名	専修大学
三、部の正式名	体育会合氣道部
四、部役員	58年 島崎監督 田中師範 堀越師範代 佐藤助監督 作田助監督 永江部長 小谷田コーチ
五、部員数	46人
六、稽古時間	9..00~10..30(月、金) 10..45~12..45(月、火、木)
七、道場の広さ	12..30~14..30(水) 14..00~16..00(土)
八、道場	生田 18..1. 1畳 神田 40畳 生田校舎 総合体育館地下1階柔道場 神田校舎 一号館地下3階体育室
九、年間行事	新入生歓迎会 新歓合宿 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月 連盟演武大会 闇鍋 昇級・昇段審査 夏合宿 連盟演武大会 昇級・昇段審査 春合宿 寒稽古 連盟合宿 三月 二月 一月 十月 十一月 十二月

大正大学合氣道同好会

主将作文

主将 高澤史子



私たち大正大学合氣道同好会は、師範の石川先生のもと稽古に励んでおります。1年生4人を新しく迎え和気あいあいとした雰囲気で、ときに厳しく、ときにゆるーく活動しています。秋に開催される演武会に向けて、ひとつひとつの技を丁寧に身につけるように練習しています。「初心忘るべからず」をモットーに、座り方や立ち方などの作法や、基本の技の鍛錬を欠かしません。

年間行事は楽しい事が目白押しです。夏と春に行われる合宿では、練習の合間に海へ行ったり観光地を回ったり、思い出作りも忘れません。最終日は部員同士でお互いを労い打ち上げをして騒ぎます。

4年生の先輩を送り出すための慰安旅行では、毎年様々な観光地に足を運んでいます。那須高原や京都に観光に行ったり、福島にてスキーを楽しんだりしています。

行事に関わらず、予定を合わせて遊びに行ったり、練習後に食事をしたりと、部員同士の仲がとても良いサークルです。しかし、遊ぶときは遊ぶ、稽古のときは稽古と、きちんととけじめをつけられる部員が集まって、合氣道の技術の向上のために切磋琢磨しています。

人数が少ないサークルなので、このサークルを知つてもらうためにもっとアピールをしていこうと考えております。ゆくゆくは部員を増やし、さらに活気のある団体にしていきたいです。今年度の主将は2年生です。右も左も分からぬ未熟者ですが、部員と力を合わせて頑張っていく所存です。

拓殖大学麗澤会体育局合氣道部

主将作文

主将 橋本圭太

今年度に拓殖大学は新校舎設立に伴い、キャンパスの変更が行われた。キャンパスの変更により従来のように部員を集めることができず、今年度の入部者は0人という結果になってしまった。自らの力不足を感じた。

合気道は一見してとてもわかりにくく習得も難しい、しかし、人体の構造に沿い、理合いに沿った合気は演武の美しさだけではなく護身術としても有用であり、一生をかけて習得するに値するものと私は思う。

私は4年間という短い時間の中では合気を習得するには至らなかつたが、この4年間で合気の面白さや、長く稽古を積んだ合気がどのようなものであるかを知ることができた。私もいつか護身術と呼べるくらいの合気を習得し、できることならこの合気の魅力をいろんな人に広めていきたいと思う。

そのためにも部員一丸となって稽古を積み、研鑽していくことで拓殖大学合気道部と合気道を盛り上げていきたいと考えている。



部紹介

一、大学名	拓殖大学
二、部の正式名称	拓殖大学麗澤会体育局合氣道部
三、創部年	1965年
四、部役員	名譽師範 須藤百治 監督 吉岡卓也 師範 芝田祐二 部長 岩崎正和 監督 山下貴晴 監督 辻義行 監督 私市秀明 監督 魚津昌弘
五、部員数	8名
六、稽古時間	月／火／木／金 100畳 土／夏季休暇／冬季休暇 10..30..30..30
七、道場の広さ	17..00..19..00
八、道場	拓殖大学八王子キャンパス第一体育館 1階武道場
九、年間行事	4・5月 新歓 8月 昇級昇段審査 9月 夏季強化合宿 10月 卒業式 1月 幹部交代式／納会 3月 大学祭

中央大学学友会体育連盟合氣道部

主将作文

主将 兼松岳



大学生活の中で、「私は何の為に合氣道をやつてているのだろうか」と疑問に感じたことがある。現代の日常生活において実際に技を使用するような場面が訪れるることはほぼ無いだろうし、受け身くらいならば車に撥ねられた時にでも役に立つのだろか、などと考えたものだ。

私が日頃の学生生活の中で感じるのは、今の大學生は誰もが多少なりとも不安を抱えながら生活しているということである。その大半は具体的には卒業後の進路のこととで、主には就職活動に対する不安であろう。この不安から漠然と英語の勉強をする者もいれば、資格を取得しようとすると者もいるし、中には何らかの行動実績を作る為に打算的に活動を行う者もいるかもしれない。大学に進学するまでは少なくとも受験勉強をしていれば間違いではなく、勉強方法の違いこそあれ基本的に自分が行うべきことは示されていた。しかしこれから先は違うのだ。いつたい何が良くて何が悪いのか、自分は今何をすればいいのか、これが今の大学生を悩ませそして不安にさせているのだろう。さて、冒頭の何の為に合氣道をやるのかという疑問だがこれは言ひ換えると、「私は今、合氣道をやつていていいのであるうか」という不安なのである。合氣道に取り組むことが悪いことだとは思わないが、その時間を他のことに費やす方が将来の為になるのではないかと悩むのだ。もし同様の不安を抱く人がいるならば、ぜひ不安と向き合い大いに悩んでほしい。不安を感じるからこそ行動し、悩んだ自分で決断を下すからこそ主体性が磨かれるのだ。

結局のところ、大学生活において何をするのが正解なのかは私には分からぬし、そもそも正解などというものは存在しな

いだらう。時に不安を抱きながらも結果的に私は大学生活のほとんどを合気道部の活動に費やした。そして今振り返つてみればその決断に間違いはなかつたと感じている。将来がどうなるかは誰にも分からぬし、その責任を取ることもできないが、引退を控えた者として後輩に思いを残すならば、ただひたすらに目の前の物事に、そしてひたすらに合気道部の活動に取り組んでほしいと思う。私がそうであつたようにきっと後悔はしないはずだから。

部紹介

一、大学名	二、部の正式名称	三、創部年	四、部役員
中央大学	中央大学学友会体育連盟合気道部	昭和33年	師範 田中茂穂 監督 永島彰夫
20名	20名	20名	20名
月・水	月・水	月・水	月・水
火・木	火・木	火・木	火・木
金・土	金・土	金・土	金・土
100畳	100畳	100畳	100畳
中央大学多摩キャンパス	新歓演武	OB総会	OB総会
新歓合宿	新歓演武	前期合宿	前期合宿
三大学合同稽古	新歓演武	後期合宿	後期合宿
白門祭演武	白門祭演武	白門祭出店	白門祭出店
防衛医大合同稽古	防衛医大合同稽古	後期昇段審査	後期昇段審査
夏合宿前稽古	夏合宿前稽古	夏合宿	夏合宿
武道館演武	武道館演武		
後期納会			
卒業生送別会			
春合宿前稽古			
連盟合宿			

帝京大学理工学部合氣道部



主将作文

合氣道をして得たもの

主将 松本昌樹

私が合氣道を始めて、早いもので2年の月日が経ちました。今まで教えられる立場にいたところから、今では教える立場になります。合氣道部に入部して印象深いのは、一年生の時は、夏合宿、勝浦合宿です。夏合宿では、そこは、とても暑いところで、畳も板のように固いところでした。やつている時は、大変でしたが、今になつて考へると、私なりに真剣にやつて楽しいと思える合宿でした。そこでは、宴会をして一発芸をする必要もありました、そのようなものをしてことを今までなかつたので、とまどいましたが、なんとか乗り切られました。あまりない経験をし、自分のためになりました。勝浦合宿も貴重な体験でした。さまざまな大学の人と異なる流派で稽古をするのは、いろいろな人を知り、さまざまな技のやり方を得られて、自分の能力を少しは上げられたと思いました。

2年生になると、後輩ができました。少しは教える立場になりました。自分が教えるなんて、出来ないと考へましたが、少しほうは教えられて、人に伝える能力を少し得たと考へます。3年生になると、後輩を引つっていく立場になり、とまどいながらも、稽古をして自分を高めていくことに考へています。

私は合氣道の良い所は人と触れ合いながら稽古する部分だらうと思います。技を掛けしていく上で、相手を知り、相手を考えて、自分はどうにすれば技を掛けられというのを考える必要があります。それは、考える力を付けられると思うし、相手も考へられる人になれると思います。それを考へて、出来なかつた技を少し掛けられるようになつた時は楽しいです。

合氣道部に入部して、経験して、学んだのは、本当にたくさ

んあります。稽古は楽しいものだけではなく、辛いのもあります。しかし、今も続けてられているのは、師範方、先輩方、同期の仲間、後輩の存在もあり、お互いを高めあえた仲間たちのおかげだとおもいます。合気道をする時間は残り少ないですが、後輩たちに少しでも、自分自身を高めあってもらい、合気道を好きになつてもらい、上達するように、精進していただきたいです。

部紹介

一、大学名	帝京大学
二、部の正式名称	帝京大学理工学部合気道部
三、創部年	平成元年
四、部役員	田中茂穂名誉師範
五、部員数	北村長栄師範
六、稽古時間	大木一男師範
七、道場	顧問
八、道場の広さ	小川充洋先生
九、年間行事	松本昌樹
10、稽古時間	部長
11、稽古時間	18名
12、稽古時間	18名
13、月水金	17～19時
14、月	14～16時
15、土	
16、月	
17、月	
18、月	
19、月	
20、月	
21、月	
22、月	
23、月	
24、月	
25、月	
26、月	
27、月	
28、月	
29、月	
30、月	
31、月	
32、月	
33、月	
34、月	
35、月	
36、月	
37、月	
38、月	
39、月	
40、月	
41、月	
42、月	
43、月	
44、月	
45、月	
46、月	
47、月	
48、月	
49、月	
50、月	
51、月	
52、月	
53、月	
54、月	
55、月	
56、月	
57、月	
58、月	
59、月	
60、月	
61、月	
62、月	
63、月	
64、月	
65、月	
66、月	
67、月	
68、月	
69、月	
70、月	
71、月	
72、月	
73、月	
74、月	
75、月	
76、月	
77、月	
78、月	
79、月	
80、月	
81、月	
82、月	
83、月	
84、月	
85、月	
86、月	
87、月	
88、月	
89、月	
90、月	
91、月	
92、月	
93、月	
94、月	
95、月	
96、月	
97、月	
98、月	
99、月	
100、月	
101、月	
102、月	
103、月	
104、月	
105、月	
106、月	
107、月	
108、月	
109、月	
110、月	
111、月	
112、月	
113、月	
114、月	
115、月	
116、月	
117、月	
118、月	
119、月	
120、月	
121、月	
122、月	
123、月	
124、月	
125、月	
126、月	
127、月	
128、月	
129、月	
130、月	
131、月	
132、月	
133、月	
134、月	
135、月	
136、月	
137、月	
138、月	
139、月	
140、月	
141、月	
142、月	
143、月	
144、月	
145、月	
146、月	
147、月	
148、月	
149、月	
150、月	
151、月	
152、月	
153、月	
154、月	
155、月	
156、月	
157、月	
158、月	
159、月	
160、月	
161、月	
162、月	
163、月	
164、月	
165、月	
166、月	
167、月	
168、月	
169、月	
170、月	
171、月	
172、月	
173、月	
174、月	
175、月	
176、月	
177、月	
178、月	
179、月	
180、月	
181、月	
182、月	
183、月	
184、月	
185、月	
186、月	
187、月	
188、月	
189、月	
190、月	
191、月	
192、月	
193、月	
194、月	
195、月	
196、月	
197、月	
198、月	
199、月	
200、月	
201、月	
202、月	
203、月	
204、月	
205、月	
206、月	
207、月	
208、月	
209、月	
210、月	
211、月	
212、月	
213、月	
214、月	
215、月	
216、月	
217、月	
218、月	
219、月	
220、月	
221、月	
222、月	
223、月	
224、月	
225、月	
226、月	
227、月	
228、月	
229、月	
230、月	
231、月	
232、月	
233、月	
234、月	
235、月	
236、月	
237、月	
238、月	
239、月	
240、月	
241、月	
242、月	
243、月	
244、月	
245、月	
246、月	
247、月	
248、月	
249、月	
250、月	
251、月	
252、月	
253、月	
254、月	
255、月	
256、月	
257、月	
258、月	
259、月	
260、月	
261、月	
262、月	
263、月	
264、月	
265、月	
266、月	
267、月	
268、月	
269、月	
270、月	
271、月	
272、月	
273、月	
274、月	
275、月	
276、月	
277、月	
278、月	
279、月	
280、月	
281、月	
282、月	
283、月	
284、月	
285、月	
286、月	
287、月	
288、月	
289、月	
290、月	
291、月	
292、月	
293、月	
294、月	
295、月	
296、月	
297、月	
298、月	
299、月	
300、月	
301、月	
302、月	
303、月	
304、月	
305、月	
306、月	
307、月	
308、月	
309、月	
310、月	
311、月	
312、月	
313、月	
314、月	
315、月	
316、月	
317、月	
318、月	
319、月	
320、月	
321、月	
322、月	
323、月	
324、月	
325、月	
326、月	
327、月	
328、月	
329、月	
330、月	
331、月	
332、月	
333、月	
334、月	
335、月	
336、月	
337、月	
338、月	
339、月	
340、月	
341、月	
342、月	
343、月	
344、月	
345、月	
346、月	
347、月	
348、月	
349、月	
350、月	
351、月	
352、月	
353、月	
354、月	
355、月	
356、月	
357、月	
358、月	
359、月	
360、月	
361、月	
362、月	
363、月	
364、月	
365、月	
366、月	
367、月	
368、月	
369、月	
370、月	
371、月	
372、月	
373、月	
374、月	
375、月	
376、月	
377、月	
378、月	
379、月	
380、月	
381、月	
382、月	
383、月	
384、月	
385、月	
386、月	
387、月	
388、月	
389、月	
390、月	
391、月	
392、月	
393、月	
394、月	
395、月	
396、月	
397、月	
398、月	
399、月	
400、月	
401、月	
402、月	
403、月	
404、月	
405、月	
406、月	
407、月	
408、月	
409、月	
410、月	
411、月	
412、月	
413、月	
414、月	
415、月	
416、月	
417、月	
418、月	
419、月	
420、月	
421、月	
422、月	
423、月	
424、月	
425、月	
426、月	
427、月	
428、月	
429、月	
430、月	
431、月	
432、月	
433、月	
434、月	
435、月	
436、月	
437、月	
438、月	
439、月	
440、月	
441、月	
442、月	
443、月	
444、月	
445、月	
446、月	
447、月	
448、月	
449、月	
450、月	
451、月	
452、月	
453、月	
454、月	
455、月	
456、月	
457、月	
458、月	
459、月	
460、月	
461、月	
462、月	
463、月	
464、月	
465、月	
466、月	
467、月	
468、月	
469、月	
470、月	
471、月	
472、月	
473、月	
474、月	
475、月	
476、月	
477、月	
478、月	
479、月	
480、月	
481、月	
482、月	
483、月	
484、月	
485、月	
486、月	
487、月	
488、月	
489、月	
490、月	
491、月	
492、月	
493、月	
494、月	
495、月	
496、月	
497、月	
498、月	
499、月	
500、月	
501、月	
502、月	
503、月	
504、月	
505、月	
506、月	
507、月	
508、月	
509、月	
510、月	
511、月	
512、月	
513、月	
514、月	
515、月	
516、月	
517、月	
518、月	
519、月	
520、月	
521、月	
522、月	
523、月	
524、月	
525、月	
526、月	
527、月	
528、月	
529、月	
530、月	
531、月	
532、月	
533、月	
534、月	
535、月	
536、月	
537、月	
538、月	
539、月	
540、月	
541、月	
542、月	
543、月	
544、月	
545、月	
546、月	
547、月	
548、月	
549、月	
550、月	
551、月	
552、月	
553、月	
554、月	
555、月	
556、月	
557、月	
558、月	
559、月	
560、月	
561、月	
562、月	
563、月	
564、月	
565、月	
566、月	
567、月	
568、月	
569、月	
570、月	
571、月	
572、月	
573、月	
574、月	
575、月	
576、月	
577、月	
578、月	
579、月	
580、月	
581、月	
582、月	
583、月	
584、月	
585、月	
586、月	
587、月	
588、月	
589、月	
590、月	
591、月	
592、月	
593、月	
594、月	
595、月	
596、月	
597、月	
598、月	
599、月	
600、月	
601、月	
602、月	
603、月	
604、月	
605、月	
606、月	
607、月	
608、月	
609、月	
610、月	
611、月	
612、月	
613、月	
614、月	
615、月	
616、月	
617、月	
618、月	
619、月	
620、月	
621、月	
622、月	
623、月	
624、月	
625、月	
626、月	
627、月	
628、月	
629、月	
630、月	
631、月	
632、月	
633、月	
634、月	
635、月	
636、月	
637、月	
638、月	
639、月	
640、月	
641、月	
642、月	
643、月	
644、月	
645、月	
646、月	
647、月	
648、月	
649、月	
650、月	
651、月	
652、月	
653、月	
654、月	
655、月	
656、月	
657、月	
658、月	
659、月	
660、月	
661、月	
662、月	
663、月	
6	

天理大学体育総部合気道部



主将作文

合氣道を通じて学んだもの

主将 池田太樹

私は現在、天理大学合気道部で稽古に励んでいます。私が合気道を始めたのは、小学校一年生の頃です。私の叔父が近くの中学校を借りて子ども達に合気道を教えており、週に二回一緒に稽古することになりました。小学生の頃は、よく天理大学合気道部の先輩方が教えてくださっていました。その頃から子どもながら「天理大学で合気道をしたい」と「世界チャンピオンになりたい」と思っていました。高校に入学してからは本格的に合気道をしたいと思ってるので天理大学合気道部の稽古に参加させていただいていました。

大学での稽古は思っていた以上にハードで稽古についていくのに精一杯でした。一番驚いたことは大学生のパワーやスタイル、スピードでした。高校一年生の頃はあまりのパワーの差にくじけそうになつたのですが大学での稽古を続けているうちに高校三年生の頃には大学生と同じとまでは行きませんがパワーやスピードがついて成長している実感が湧きました。高校時代も子どもからの目標は変わらず、天理大学で合気道をしたいと思つていたので、天理大学を受験し合格することができます。子どもの頃の目標だった「天理大学で合気道をしたい」という目標を叶えることが出来て嬉しかったのを覚えています。

現在は主将をさせていただいています。主将という役割をさせていただく中で部活全体を部員同士で協力し合いながら盛り上げること、部員一人一人の合気道の実力向上を図るために主将として自ら率先して稽古に励んでいくことを学ぶことができました。

私が今、子どもの頃から憧れていた天理大学で、合気道が出来ているのは私を支えてくれているすべての方のおかげだと思います。私は支えてくださっているすべての方に喜んでもらうため、また、自分の目標を叶えるために合気道を頑張ります。

私が大学在学中に掲げている目標は子どもの頃からの夢である「世界チャンピオンになること」と主将としての目標である「全日本学生合気道競技大会 団体戦優勝」です。

部紹介

二、大学名	三、創部年	四、部役員	五、部員数	六、稽古時間	七、道場の広さ	八、道場	九、年間行事
天理大学	1980年	師範 部長 総監督 監督	17名	月火木金、17時～19時30分 約350畳	天理大学体育総部合氣道部 松尾勇先生 安居隆總監督 東原善一監督	成山哲郎師範	

東京大学運動会合氣道部



主将作文

終わりなき自己の探求

主将 岡祐司

本文を始める前にひとつお断りしなければならないことがあります。諸事情により、昨年の連盟誌もありがたいことに私が書かせてもらうことになり、「伝統を受け継ぐ」という大それた表題で、東大合氣道部六十周年記念行事の南米訪問について書かせていただきました。簡単にご説明しますと、これは昨年の九月、ブラジル・ペルーの二ヶ国を、二週間で周るというものでした。ここで問題なのは、連盟誌の原稿の提出期限が今年度同様、夏休みに入る直前だったということです。しかもこの時期にはまだ正式には主将に任命されておらず、実績も何もない状態だったので、悩んだあげく私が辿り着いたのは「南米に行つた体」で文章を書くという無謀な結論でした。連盟誌が発行される時には訪問を終えているはず、という誠に勝手な推測の上、提出してしまいました。実際には、帰りの飛行機でエンジンが突然火を吹くというトラブルに見舞われながらも、無事全日程を終了し、事なきを得ることができました。また、作文の中で私が予想して書いたことは全て出鱈目という訳ではありませんでした。どちらかと言えば、自分の予想や期待をはるかに超えて、数多くの貴重な経験をすることができたからです。そして南米訪問をきっかけに、合氣道と国際交流について考える場面も増えました。例えば、今年の三月には有志でモスクワ大学を訪れ、学生からなるBudo Clubの皆さんと合同稽古をしました。また、日頃の稽古にも、留学生や外国人の研究者が顔を出すこともあり、部員の刺激になつております。もちろん、他国との交流を無批判に肯定するつもりはありません。交流をする時には言語や文化の違いから発生する様々な

障害が立ちはだかります。また、慎重に行動しなければ後から大変な不利益を被る危険性もあります。(相手を怪我させてしまう、等)しかし、そのような壁の先に、国境を越えた付き合いというものがあります。

「人を知る」ということは「自分を知る」ことから始まり、再びにそこに戻つてくる、そう私は信じています。例えばロシアでまず私たちに求められたのは「自分達が何者であるか」「日本文化とは何か」を伝えることでした。さもなければ向こうの信用来を得ることができず、交流が意味を為さないからです。次に、実際に時間と共にすることで、自分が当たり前だと思うことを相手がしなかつたり、その反対のことが起こつたりすると改めて自己の中の常識を問うことになります。自己への回帰こそ、国際交流の醍醐味だと思います。

合気道もそうです。もちろん一人稽古に励むことは大切だと思います。しかし、毎日他者と関わることで自分に足りないものが明確になり、このような稽古を繰り返していくことでより深く自分という人間を理解することができれば、これ以上の喜びはありません。そして機会があれば他流派、他武道と交わる。ここにも、また新しい発見があるはずです。そういう意味で、この学生合気道連盟の一年に一度の演武大会は負けがなくとも勝ち(価値)のある場だと思います。

部紹介

一、大学名	二、部の正式名称	三、創部	四、部役員
東京大学	東京大学運動会合氣道部	昭和29年	永世師範 稻葉稔 山田高廣
本郷	稽古時間	53名	田中茂穂 木村秀雄 能智正博
駒場	月々金	12..00..12..50	名譽師範 師範 部長 部長代理
本郷	水・木	18..50..20..50	駒場 駒場キヤンバス第一体育館柔道場 (約100畠)
駒場	火・木	..50..50..50	本郷キヤンバス七徳堂(約80畠)
八、年間行事	七、道場及び広さ	六、部員数	五、部員数
3月 2月 1月 1月 1月 1月 1月 2月 春合宿	新歓演武会 新歓旅行 夏合宿 秋合宿 全日本学生合氣道連盟演武大会 駒場祭演武会 冬強化合宿 寒稽古 二月強化合宿	4月 5月 6月 8月 9月 10月 11月 12月	八、年間行事

東洋英和女学院大学合氣道部

主将作文

主将 丹羽夏音

これから私の合氣道部においての活動と思いについて正直に述べたいと思う。

私が主将に就任したのは去年の12月である。当時、英和合氣道部では人数不足という危機を迎えていた。去年の部員数は4回生が3人、2回生が1人、1回生が3人だった。人数が少ないというのはもちろん悩みの一つではあったが、それよりも大きな問題は時期主将に適任な部員がいなかつたということである。ならばなぜ、私が今主将として活動しているのか、気になる人もいるだろう。率直に理由を言えば「当時の部員の中で、一番在部年数が長かつた」だからだろう。それ以外の理由が私には見当たらない。

それから4か月経った今年の春、英和合氣道部には12名という多くの新入生が入部した。廃部ギリギリの部員数だった英和にとつて非常に嬉しいことであった。この嬉しさから私は、部員をまとめる存在である主将としてふさわしい技量やを行いをして、部のさらなる発展を目指すことを決意した。しかし、実際は思うようにいかなかつた。新入生が入部した当初、私自身が昇段審査を控えていた。審査に向けた稽古を行う中で自らの不十分さを痛感していた。そのため力不足である私が後輩に教えといいものかと思っていた。それに加えて、この時期、私は自身の将来に向けた取り組みを行つていたほか、今だから言える話ではあるが、家庭でのトラブルなども抱えていた。他にもさまざまな不安要因が度重なり、合氣道部のことを考えることが難しくなってしまった。本来ならば部の悩みは先生にご相談、もしくは仲間に打ち明けることで打開につながるだろうが、同期がない私は気軽に相談ができる相手がいないと思い込んで



しまつていた。気配りが上手な後輩にこれ以上気遣いをさせたくないという思いがそれを後押しした。そもそも私の性格上、信頼できる友達、家族にすら悩みを打ち明けて頼るということがあまりできない。これまで大概のことは自らの力で乗り越えてきた私にとって、己の力ではこなしきれないという事態は初めてだった。

幹部交代から7か月経つたが、私は未だに主将としての適性がないと思う。私には要領の良さもリーダーシップもない。だからこそ、先生や部の仲間、ご卒業された先輩方のお力添えを頂きたい。そして、来年は英和合氣道部にとって創立20周年という大事な年となる。来年に向けより一層精進し、部に何か貢献し、支えてくださった皆様のお力になることが私の今後の目標である。

部紹介

一、大学名	東洋英和女学院大学
二、部の正式名称	東洋英和女学院大学合氣道部
三、創部年	平成七年
四、部役員	顧問 望月敏弘
五、部員数	十六名
六、稽古時間	木曜 一七時三〇分～一九時三〇分 夏季・春季休暇期間 火曜・金曜 一四時〇〇分～一六時〇〇分 木曜 一〇時三〇分～一二時三〇分
七、道場の広さ	50畳
八、道場年間行事	東洋英和女学院大学クラブハウス内ナルド 勧誘活動、護身術講座 浦安市合氣道演武大会 新入生歓迎会、昇級昇段審査 夏合宿 全日本学生合氣道演武大会 全日本養神館合氣道 総合演武大会、かえで祭 昇級昇段審査 春合宿、卒業生送別会
九、年間行事	
十、顧問	

富山大学体育会合気道部



主将作文

主将になつて

主将 丸山和敏

この作文を書いている頃、私が主将になつてからちょうど二ヶ月が経とうとしている。この二ヶ月、自分はちゃんと主将の役目を果たせていたのか。主将作文を書くにあたつて、そう自問してみた。だが私が主将になつてからを思い返してみると、同期に助けられた記憶ばかりが浮かんでくる。行事を滞りなく進行し、裏方の仕事もきつちりとこなしてくれた同期達。彼らのサポートなしには、この部をこれまで運営することはできなかつただろう。それに比べて自分は主将の役目を果たしているのか。そう考えると、正直自信はない。この作文が載る連盟誌が手元に来るまでには、彼らに見合う主将に成長していく。

今年、富山大学体育会合気道部は創立四十五周年という節目の年を迎える。この記念すべき年の主将が自分であるというの部の歴史に恥じない演武をしなければならない。相当な重圧だ。主将になった当初は、このプレッシャーに苛まれたりもしたが、最近は自分を成長させるいい機会だと思えるようになつた。この行事に向けての準備や稽古が大変ではあるが、貴重な経験だと思って精進していきたい。

長々と書いたが、要点をまとめると、「自分はまだまだなので、努力したい」ということだ。同期達に助けられてばかりだし、四十五周年の記念演武会で完璧な演武を披露できる自信もない。自分はまだまだ主将としての実力が足りない。ネガティブなことばかりを書いてしまうが、これは事実だ。もつともつと成長しなければ。

こんな主将でもついてきてくれる部員達には感謝をしたい。本当に私は周りの人々に恵まれていると思う。同期や後輩達はなんだかんだ言つても様々な場面で私を助けてくれるし、先輩方も頼りになる人たちばかりだ。本当に感謝が尽きない。この部で出会つたすべての人とのつながりは、私の人生の中で最高の宝物だ。この部とともに稽古ができるのを幸せに思う。この気持ちを忘れずに今後も精進していきたい。そして自分が主将を引退するとき、部員たちが「この人が主将でよかつた」と思えるような主将でありたい。

部紹介

明治学院大学体育会合気道部

主将作文



主将 高木開

押忍。私は明治学院大学体育会合気道部第57代主将の高木開です。現在、本学合気道部は男子20名女子17名の計37名で活動しています。明治学院大学体育会合気道部は合気道鍊身会に所属しており、最高師範千田務先生のもとで日々稽古をしております。千田先生からご指導を直々に受けることができます。最も良の稽古環境があり、部員全員が先生の技を体感し、常に向上心を持って活動しているため活気ある雰囲気の中で稽古を行っています。

本学合気道部は今年、第60代となる部員が入部しました。それだけ長い歴史と伝統のもとで築き上げられてきたと思うとともに感慨深いものだと感じています。こうして今も続いているのも千田先生をはじめとするたくさんの先生方や鍊身会の会員の方、部長先生、OB、他大学のみなさんや周囲の人々の助けのおかげです。このことを忘れずに今後もより一層日々の稽古や演武大会に励んでいこうと思います。

ところで、約60年間続いていると述べましたが、現在、本学合気道部は第57代が幹部として部の運営をしております。これだけの年月もたてば、きっと昔とは部も変わってしまったところもあると思います。しかし根本にある、周りとのつながりを大切にする、合気道を通して相手を敬う気持ちを育てる、そういう部分は守っていこうと現幹部は心がけております。現幹部の基本方針として「和の精神」というのをテーマにしておりますが、これはそういった根元にある大事なところを忘れずにいよいよというのもあります。また、活動方針としては「感謝する」をテーマにしており、こちらは基本方針より、さらに人とのつながりを大切に活動していくことを表し

部紹介

ております。このように周りとのつながりをとても重要視しているのが本学合気道部の特徴であり、守るべき伝統だと考えています。ですので、このことは現幹部のみならずにしつかり後輩にも引き継がなければならず、その後も守り続けてほしいと願っています。

最後にですが、本学合気道部が続いていくとなると、多くの人の支えが必要となります。ですので、これからも変わらぬご厚情をお願い申し上げます。

一、大学名	二、部の正式名称	三、創部年	四、部役員
明治学院大学	明治学院大学体育会合気道部	1958年	師範 千田務 部長 浅川達人 監督 浅野通成
五、部員数	六、稽古時間	七、道場の広さ	八、道場
37名	水曜 15..00~18..00 金曜 18..00~20..00 土曜 12..00~15..00 100畳	横浜校舎道場 白金校舎道場	九、年間行事
			新入生歓迎デモンストレーション 対面式 春季審査合宿 夏季合宿 幹部交代式・鍊身会演武大会 白金祭演武会・秋季審査合宿 昇級・昇段審査 寒稽古 冬季合宿 上智明学合同演武・稽古会

明治大学体育同好会連合会合気道部



主将作文

富木合氣道

主将 福田耕輔

あれは忘れもしない1年のゴールデンウイーク前のことだつた。合気道なるものがなんのかよくわからず見学をさせていただいた。それから早3年2か月、気が付けば引退まで間もなくとなつた。この文章を書いている時点ではまだ半年ほどあるが、自分が入部して何を学んだか考えてみる。ちょうど就活中だし。

ご存じ明治大学の合気道部は「合気会」「養神館」「富木」の3流派がある。なぜ富木にしたのか。理由は単純で、他にあつたとは知らなかつただけである。入部してから初めて乱取りがあると知つた、というよりも乱取り(もしくはそれに準ずるもの)がある前提で富木の門を叩いた。

富木と合気会の違いを擧げると、何より乱取り(試合)があるかないかである、とみな口をそろえて言う。私は両方やつたことがないので正直わからない、ので比較はしないことにする。

この部で特に悩んだことは、勝ち負けに拘ることと部の運営である。部の運営に関しては4年生は言うまでもなし、3年生以下は自分たちの代まで楽しみにしているといい。きつと最高だ。今回は勝ち負け(勝負)に拘る、を述べたい。

先にも述べたが富木には乱取りがある。そのため、大会では個人乱取り、団体乱取り、演武の3種目が行われる。演武に関しては自分との戦いなのでこれまで置いておく。乱取り試合について簡単に説明すると、1試合3分を前後半とし、短刀・徒手に分かれ、短刀側は刺すとポイントが入り、徒手は相手の短刀を捌いて投げる。よりポイントを取つた選手の勝ちというゲ

ームである。ルールは大体このよう感じである。乱取り試合の肝は①真剣勝負であること②相手は抵抗することにあると考える。①は真剣勝負の場だからこそ緊張していくても普段の力を發揮できるようにする稽古の場になり、②本気で耐える相手には生半可な稽古ではなく、死にもの狂いの相手を乗り越える努力が必要だ。そうした精神修養の場と不断の努力の場、二つの意味合いがあるように考えてきた。

しかし最近また違う考え方生まれてきている。試合になると相手は負けじと攻めてくる。そういう相手を投げる(負かす)には何が大事であろうか。そこでは相手がどうのこうのではなく、自分がどうやつて乗り越えるべきか考える必要がある。結局誰かと戦っているようで、自分の出来ていなかところを見つめ直す自分との戦いをしているのではないか。勝ち負けに拘るのは大事だが、もっと重要なものがあるのではないか。そのような考えも出てきた。

学生生活1年を切ってしまった。己に克ちて礼に復るを仁となす。

できるなどを全力で、悔いのないようにやる。
そういうものに私はなりたい。

みつを

四、部役員

部長 井田正道

栗山直規

師範代 向坂裕一

監督 奥山英男

五、部員数 稽古時間

36名

火曜日

木曜日

金曜日

土曜日

日曜日

14..40..17..30

13..00..17..00

12..30..14..30

9..30..13..00

..30..00..30

六、年間行事

明治大学和泉校舎体育館柔道場
新年稽古会

250畠

火曜日

木曜日

金曜日

土曜日

日曜日

14..40..17..30

13..00..17..00

12..30..14..30

9..30..13..00

..30..00..30

七、道場の広さ

明治大学和泉校舎体育館柔道場

火曜日

木曜日

金曜日

土曜日

日曜日

14..40..17..30

13..00..17..00

12..30..14..30

9..30..13..00

..30..00..30

八、道場

明治大学和泉校舎体育館柔道場

火曜日

木曜日

金曜日

土曜日

日曜日

14..40..17..30

13..00..17..00

12..30..14..30

9..30..13..00

..30..00..30

九、年間行事

明治大学和泉校舎体育館柔道場

火曜日

木曜日

金曜日

土曜日

日曜日

14..40..17..30

13..00..17..00

12..30..14..30

9..30..13..00

..30..00..30

部紹介

- 一、大学名 明治大学
- 二、部の正式名称 明治大学体育同好会連合会合氣道部
- 三、創部年 1969年

1月 夏合宿
2月 審査会、後期納会

3月 全日本学生合氣道競技大会

4月 関東学生合氣道競技春季大会

5月 昇級昇段審査会 前期納会

6月 関東学生合氣道競技新人大会

7月 O B O G 新歓コンペ

8月 春合宿前予備稽古

9月 日本学生合氣道演武大会

10月 関東学生合氣道競技秋季大会

11月 昇級昇段

横浜国立大学体育会合気道部



主将作文

一年目の合気道

主将 山野邊なぎさ

私自身が合気道を始めたのは、去年の4月の下旬からでした。大学入学当初は、合気道を始めようとは露も思つていませんでした。しかし、体験入部の際に、先輩方の技を目の前に見て、自分もこんな風に美しく技が決められたら格好いいだろうなと思い、入部を決めました。今まで、武道とは無縁の生活をしていたため、礼儀や作法など全く知らない状態であつたため、覚えることや学ぶことが多く、やればやるほどにはまつていく自分がいました。

そして、先輩が引退され、主将となつたのは私でした。他に主将のポジションになれる方がいなかつたというのもあります。が、正直、自分では力不足を感じていました。そこで多くの不安を感じていました。合気道をはじめてから1年しか経っていないので、経験不足なのは勿論のことなのですが、学ばなくてはならないことが多く残っているのもかかわらず、後輩に正しいことを教えていくことができるのか。女性である自分に主将という立場はあまりにも能力不足なのではないか。昨年まで、部の主体となつてくださつた先輩のように頼りになる主将にはなれないのではないか。でも、もし、自分がしつかりしていくなければ、部活動として成り立たなくなってしまうのではないか。先輩が引退されてから、自分がどれだけ先輩に頼り、甘えていたのか思い知らされるようになりました。

しかし、その中で、様々な先輩や先生、後輩に支えられていることをひしひしと感じるようになりました。また、自分が間違つたことをしていふことを教えて下さる人がいることが、どれだけ大切なのがわかるようになりました。このようなこと

部紹介

から、最近感じるようになつたのは、大学での部活動というのは社会にでから、必要となるような礼儀作法を学ぶ場所として勉強するにはうつてつけの場所だということです。だから、私は、この貴重な機会を無駄にしないように、精一杯頑張つていきたいと思います。

こんな不甲斐ない主将ですが、支えてくださつてある先生や先輩、後輩の皆様にこの場をかりて、お礼を言いたいと思います。ありがとうございます。これからも、一緒に合気道を頑張つてゆきましょう。

一、大学名	二、部の正式名称	三、創部年	四、部役員
国立大学法人	横浜国立大学	横浜国立大学	担当教官・部長・柳赫秀
平成15年	平成15年	平成15年	師範・監督・石黒行雄
代表..加瀬萌子	代表..加瀬萌子	代表..加瀬萌子	教授
主将..山野邊なぎさ	副将..落合雅之	主将..山野邊なぎさ	副将..落合雅之
五、部員数	六、稽古時間	七、道場の広さ	八、道場
9人	水曜 19..30..21..00 金曜 19..30..21..00 土曜 17..00..19..00	86畳	横浜国立大内柔道場 久里浜道場
九、年間行事	春秋の年2回行われる大学祭に於ける 野外演武 養神館合気道演武大会に於ける 演武大会への出場 横浜市合気道演武大会に於ける賛助演武		

早稲田大学体育局合気道部

主将作文

主将 安藤圭彦



私にとつて合気道は自分を表現する一つの手段なのではないかと考えています。例えば演武をしていても、荒っぽい技を多く取り入れる人、優雅な動きをする人、教えに忠実に技を行う人など合気道を通じてその人の考え方・価値観が透けて見えるような気がします。自由技による演武をする場合は、当然ながら合気道の全部の技を行えるわけではないので、そこには技の取捨選択があります。なぜその技を取り入れ演武で披露しようとしたのかと見てみると面白いかもしれません。自分の得意な技だったからなのか、合気道の代表的な技だからなのか、見た目が派手だったからなのか、あるいは技の難易度が高かつたからなのか。人の多種多様な考えがそこからは伝わってくる気がします。

さて、合気道と言つても、そこには様々な流派があることはすでに皆様にとつては、周知の事実だと思います。四方投げ一つとっても、流派ごとの考え方・やり方があることがわかります。様々な流派を受け入れ、交流できる環境があることは学生合気道の素晴らしい部分だと思います。こうした機会を活用し、様々な事を吸収することによって自分達の成長に繋げられれば、また逆に、私達の事を皆様に紹介することによって、皆様の成長に貢献できれば幸いです。

最後になりますが、今後とも早稲田大学合気道部をよろしくお願いします。

一、大学名	早稲田大学
二、部の正式名称	早稲田大学体育局合氣道部
三、創部年	1958年
四、部役員	志々田文明部長(師範) 佐藤忠之師範
五、部員数	約30名
六、稽古時間	平日16:30~19:00 土曜15:00~18:00
七、道場の広さ	約100畳
八、道場	早稲田大学17号館地下一階
九、年間行事	1月 寒稽古 3月 升級昇段審査会 4月 二十大学合同稽古 6月 関東学生合氣道競技新人大会 7月 関東学生合氣道競技大会 10月 五大学合同稽古 9月 升級昇段審査会 前期納会 10月 夏合宿 1月 早慶合氣道定期競技会 2月 全日本学生合氣道演武大会 2月 全日本学生合氣道競技大会 2月 関東学生合氣道競技秋季大会 後期納会

部の雰囲気を四字熟語で表すと？

大学	1位 !!	2位 !	3位
金沢大学	元氣澆刺	金科玉条	奇人
関西福祉大学	十人十色	溫柔敦厚	拳拳服膺
京都産業大学	切磋琢磨	相摹井目	上意下達
近畿大学	和氣藹々	不撓不屈	粉骨碎身
成城大学	質実剛健	粉骨碎身	一致団結
専修大学	十人十色	七転八起	四苦八苦
大正大学	自由闊達	寛仁大度	闊度自在
拓殖大学	温故知新	切磋琢磨	武產合氣
中央大学	質実剛健	不撓不屈	切磋琢磨
帝京大学	千差万別	少数精銳	風林火山
天理大学	大器晚成	十人十色	明鏡止水
東京大学	和氣藹々	質実剛健	切磋琢磨
東洋英和女学院大学	山容水態	切磋琢磨	力戦奮鬪
富山大学	変人集団	十人十色	自由奔放
明治学院大学	切磋琢磨	百連城剛	十人十色
明治大学	切磋琢磨	百花繚乱	一意專心
横浜国立大学	切磋琢磨	日進月歩	一意專心
早稻田大学	無心無構		

四、特別企画

現主将を漢字一文字で表すと？

(アンケート時点での主将です。敬称略)

大学	主将	1位!!	2位!	3位
金沢大学	関口航	航	面	適
関西福祉大学	田邊和也	鳥	鷄	西
京都産業大学	五百木俊晴	和	砦	亀
近畿大学	森大樹	勇	優	陽
成城大学	野口宏輝	父	大	食
専修大学	吉川修	柔	寛	神
大正大学	高澤史子	優	確	凜
拓殖大学	橋本圭太	押	忍	鍊
中央大学	兼松岳	漢	凜	剛
帝京大学	松本昌樹	秘	黙	静
天理大学	池田大樹	肉	筋	鍛、力
東京大学	岡祐司	岡	楽	優
東洋英和女学院大学	丹羽夏音	柱	勇	翔
富山大学	丸山和敏	食	肉	女
明治学院大学	高木開	武	開	頂
明治大学	福田耕輔	剛	強	嘘
横浜国立大学	山野邊なぎさ	徹	魂	直
早稲田大学	安藤圭彦	無		

加盟校連絡先

加盟校連絡先 一覧表

大阪商業大学合氣道部	577-0036	大阪府東大阪市御厨栄町 4-1-10
金沢大学体育会合氣道部	920-1164	石川県金沢市角間町
関西福祉科学大学合氣道部	582-0026	大阪府柏原市旭ヶ丘 3 丁目 11 番 1 号
京都産業大学合氣道部	603-8047	京都府京都市北区上加茂本山
近畿大学合氣道部	577-0805	大阪府東大阪市宝持 3-33-35
国士館大学合氣道部	195-0052	東京都町田市広袴町 844
上智大学体育会合氣道部	102-8554	東京都千代田区紀尾井町 7-1
成城大学合氣道部	157-0066	東京都世田谷区成城 6-1-20
専修大学体育会合氣道部	214-0033	神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1
大正大学合氣道同好会	170-8470	東京都豊島区西巣鴨 3-20-1
拓殖大学麗澤会	193-0085	東京都八王子市館町 815-1
体育局合氣道部		
中央大学学友会	192-0351	東京都八王子市東中野 742-1
体育連盟合氣道部		
帝京大学理工学部合氣道部	320-0351	栃木県宇都宮市豊郷台 1-1
天理大学体育総部合氣道部	632-0032	奈良県天理市杣之内町 1050
東京大学運動会合氣道部	113-0033	東京都文京区本郷 7-3-1
東京医科大学		
体育会合氣道部	160-0023	東京都新宿区西新宿 6-1-1
東洋英和女学院大学		
合氣道部	226-0015	神奈川県横浜市緑区三保町 32
富山大学体育会合氣道部	930-0887	富山県富山市五福 3190
明海大学合氣道部	279-0014	千葉県浦安市明海 1 丁目
明治学院大学		
体育会合氣道部	108-0071	東京都港区白金台 1-2-37
明治大学体同連合氣道部	101-0062	東京都千代田区神田駿河台 1-1
山梨学院大学		
体育会合氣道部	400-8575	山梨県甲府市酒折 2-4-5
横浜国立大学合氣道部	240-8501	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1
早稲田大学体育局合氣道部	169-0051	東京都新宿区西早稲田 1-6-1
全日本学生合氣道連盟	102-0091	東京都千代田区北の丸公園 2-3 日本武道館内

歷代幹部名簿

1期 (昭和34年)	亀井静香	東京	井上強一	中央
2期 (昭和36年)	若狭博	中央	尾崎駿	中央
3期 (昭和37年)	小林昭彦	中央	倉田出	東京
4期 (昭和38年)	柳奥和浦	中央	小暮登	東京
5期 (昭和39年)	大場勉	東京	吉岡卓也	拓殖
6期 (昭和40年)	小沢太一	中央	川上太一	中央
7期 (昭和41年)	山本柳二	拓殖	藤本柳二	拓殖

10期 (昭和44年)	吉田淳一	藤平忠則	福本強	大塚誠一	河内永	浜口清人	森实邦明	田中明彦	小林茂	川辺順一	久和原凡	小林正行	増田芳久	西野充	工藤弘道	堀田武治	芦田利昭	金子正勝	相原伝次	飯塚征毅
企	企	企	企	總	涉	會	副	副	委	9期 (昭和43年)	9期 (昭和43年)	9期 (昭和43年)	9期 (昭和43年)	9期 (昭和43年)	8期 (昭和42年)	8期 (昭和42年)	8期 (昭和42年)	8期 (昭和42年)	8期 (昭和42年)	
副	副	副	副	企	企	企	總	涉	會	大塚誠一	河内永	浜口清人	森实邦明	田中明彦	小林茂	川辺順一	久和原凡	小林正行	増田芳久	西野充
副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	吉岡卓也	大場勉	柳奥和浦	柳奥和浦	柳奥和浦	柳奥和浦	吉岡卓也	大場勉	柳奥和浦	柳奥和浦	吉岡卓也
副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	川上太一	川上太一									

12期 (昭和46年)	立花英昭	平井敏信	吸地重雄	吸地重雄	松井昭一	吉田英昭	田下啓一	中田英昭	小出豊	石川和夫	大久保律雄	佐々木均	川口永一	加来健一	真貝栄一	11期 (昭和45年)	藤本藤二	芦田利昭	金子正勝	相原伝次
企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	

15期 (昭和49年)	飯田小谷	根本康幸	根木達次	鈴木隆	吉野幸敏	白鳥雅康	市川雅司	佐藤雄司	難波秀記	森田泰弘	平沢純	竹内忠洋	山内正雄	蟹江良一	赤泊英哉	14期 (昭和48年)	藤本藤二	芦田利昭	金子正勝	相原伝次
企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	企	
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	

副 会 副 副 委 幹 企 涉 記 会 副 副 委 総 涉 副 副 委

1	6期	(昭和50年)	中神雅人	中央
7	吉川英夫	早稻田	藤田世潤	東京
8	鈴木太郎	明学	坂井 豊	明治
9	江口和親	明治	小宮公則	日本
10	渡辺明仁	専修	飯山浩吉	成城
11	金山栄吉	拓殖		
12	三浦弘至	専修		
13	桜美林	副委		
14	下克美	副委		
15	竹山	副委		
16	館	副委		
17	小林誠作	副委		
18	笠原彥彦	副委		
19	加藤大和	副委		
20	中原保均	副委		
21	田中明治	副委		

筑茂重仁	宮本正雄	早稻田	中央
寒河江正人	塚本修久	明治	日本
河合正行	斎藤義明	拓殖	專修
和田達夫	加藤頼義	明学	東京
菊池傑	寺戸宏忠	成城	会記
八巻稔	関根忠	専修	総幹事
松尾重巳	寺川富啓	早稻田	副会員
中央	平野行孝	桜美林	幹事
中央	江藤尚志	副委員	副委員
中央	三宅宏司	企	企
中央	公文寛朗	企	副委員
拓殖	井川裕行	總	會員
(昭和55年)	三瓶美憲	總	會員
	明学	幹	會員
	拓殖	會	會員
		副	副委員

（旧須藤）	大森新一郎	中央
今泉美保	早稻田	委
芽根正宏	中央	副
越智信喜	東京	幹
高橋清一	中央	副
古川浩之	明治	委
根来俊久	東京	總
吉沢 賢	中央	會
2 4期（昭和58年）	2 3期（昭和57年）	2 2期（昭和56年）
増山輝義 明治	浅田 毅 中央	高橋清一 中央
石田俊正 東京	松沢 宏 中央	古川浩之 中央
大塚俊之 伸晃 拓殖	大谷知未 東京	根来俊久 東京
小野重光 早稻田	上岡由起男 明治	吉沢 賢 中央
三原恵理子 中央	上溝武則 専修	
書会幹副 委	会幹副 委	

25期	(昭和59年)	大津寿美	委員会
畠山裕弘	専修	内藤健一	副幹事会
谷田辺浩	東京	田辺和弘	中央委員会
武田裕二	早稻田	松本雄造	中央委員会
日野孝幸	日野孝幸	27期	(昭和61年)
大宮千秋	藤生幸男	平野勝己	保木俊司
中央	中央	菅原龍男	拓殖
中央	中央	谷村直城	明治
中央	中央	伏田広幸	明治
中央	中央	小暮喜一	明治
中央	中央	川鍋清隆	早稻田
中央	中央	岩崎貞明	明學
中央	中央	小沢仁志	東京
中央	中央	伏田広幸	東京
中央	中央	小暮喜一	東京
中央	中央	川鍋清隆	東京
中央	中央	岩崎貞明	東京
中央	中央	26期	(昭和60年)
中央	中央	25期	(昭和59年)

3 1期 (平成 2年)	3 0期 (平成元年)	3 2期 (昭和 63年)	3 4期 (平成 5年)	3 6期 (平成 7年)	3 8期 (平成 9年)	3 7期 (平成 8年)
山本 征司	西尾 喜久	橋本 拓治	藤岡 敏郎	伊藤 廣幸	神谷 伸吾	田中正也
早稻田	明学	中央	拓殖	専修	東京	東京
3 1期 (平成 2年)	3 0期 (平成元年)	3 2期 (昭和 63年)	3 4期 (平成 5年)	3 6期 (平成 7年)	3 8期 (平成 9年)	3 7期 (平成 8年)
委 副 副 委	企 副 副 委	企 副 副 委	企 副 副 委	企 副 副 委	企 副 副 委	企 副 副 委

3 4期 (平成 5年)	3 3期 (平成 4年)	3 2期 (平成 3年)	3 4期 (平成 5年)	3 3期 (平成 4年)	3 2期 (平成 3年)	3 4期 (平成 5年)
矢口 朋来	但野 端子	蓮香 正英	石川 敦子	圖師 守和	蓮香 正英	葛山 宏
東京	宇野 達雄	宇野 達雄	宇野 達雄	宇野 達雄	鈴木 美輝	児玉 晃治
3 4期 (平成 5年)	3 3期 (平成 4年)	3 2期 (平成 3年)	3 4期 (平成 5年)	3 3期 (平成 4年)	3 2期 (平成 3年)	3 4期 (平成 5年)
委 書	會 幹	副 委	會 幹	副 委	會 幹	副 委

3 6期 (平成 7年)	3 5期 (平成 6年)	3 4期 (平成 5年)	3 6期 (平成 7年)	3 5期 (平成 6年)	3 4期 (平成 5年)	3 6期 (平成 7年)
菅野 貴裕	溝口 義郎	千葉 陽一	永田 泰三	中奥 英男	荒井 剛	小林 賢一郎
早稻田	東京	拓殖	東京	明治	中央	高木 辰徳
3 6期 (平成 7年)	3 5期 (平成 6年)	3 4期 (平成 5年)	3 6期 (平成 7年)	3 5期 (平成 6年)	3 4期 (平成 5年)	3 6期 (平成 7年)
幹 副 副 委	會 幹	副 委	會 幹	副 委	會 幹	副 委

3 7期 (平成 8年)	3 8期 (平成 9年)	3 9期 (平成 10年)	3 7期 (平成 8年)	3 8期 (平成 9年)	3 9期 (平成 10年)	3 7期 (平成 8年)
野 永 一 色 泰 友	丸 井 祐 介	川 田 晃	大 野 久 美 子	荒 井 上 和 靖	小 原 圭 介	河 口 大 輔
東 京	上 智	中 央	拓 殖	東 京	大 西 繁	植 田 修
3 7期 (平成 8年)	3 8期 (平成 9年)	3 9期 (平成 10年)	3 7期 (平成 8年)	3 8期 (平成 9年)	3 9期 (平成 10年)	3 7期 (平成 8年)
副 副 委	書 副 委	幹 委	副 副 委	幹 委	幹 副 副 委	幹 副 副 委

村田英幸	增本浩	増田与志子	八波直登
荒川大地	井田篤志	松浦妙子	鈴木雄大
松村陽	中山章太郎	中原桃絵	武井誠
東京拓殖	東京拓殖	上智会	明治中央
専修	専修	幹事会	総務委員会
東京	東京	書記幹事	幹事会副委員
拓殖	拓殖	副幹事	副委員会
明治	明治	副幹事	委員会副委員
東京	東京	幹事	幹事会副委員
専修	専修	書記	書記幹事会副委員
佐藤有紀	増田賢司	二見崇史	木畠千端子
鈴川真世	木島千端子	北条隆夫	松原誠
五十嵐洋介	東京	鈴木雄大	松原誠
東京	東京	上智	上智
明治	中央	拓殖	拓殖
東京	中央	幹事会	幹事会
専修	中央	書記幹事会	書記幹事会
会	涉	人	幹事会

赤芝有紀	前田昭平	佐藤友子	前田昭平	久須美千晶	外間実樹雄	北村真希子	斎藤智子	糟谷綾子	羽鳥敦	猪俣洋右	期（平成 15年）	4期（平成 15年）	4期（平成 14年）	4期（平成 14年）
中央	中央	佐藤	前田	佐藤	北村	斎藤	糟谷	羽鳥	猪俣	大林直樹	宮島望	寺保美有紀	犬塚彩	鈴木宏治
副委	副委	友子	昭平	友子	真希子	智子	綾子	敦	洋右	直樹	望	美有紀	百井美由紀	五十嵐洋介
副	副	前田	洋介	前田	北村	斎藤	糟谷	羽鳥	猪俣	宮島	寺保	大内直人	大内直人	東京
委	委	昭平		昭平	真希子	智子	綾子	敦	洋右	望	美有紀	美有紀	彩	東京

片岡伸	福村晃弘	南山泰之	浅田真理	石毛剛臣	横山美尋	五十嵐俊輔
4期(平成17年)	6期(平成17年)	7期(平成17年)	7期(平成17年)	7期(平成17年)	7期(平成17年)	7期(平成17年)
47期(平成18年)						
水 中 敬 子	石 堀 拓 也	永 田 拓 也	永 田 拓 也	森 田 宙 花	石 原 祐 一	齋 藤 敏 道
中 央 専 修	大 石 幸 吉	大 石 幸 吉	大 石 幸 吉	大 石 幸 吉	大 石 幸 吉	大 石 幸 吉
中 央 專 修	中 央 專 修	中 央 專 修	中 央 專 修	中 央 專 修	中 央 專 修	中 央 專 修
涉 内 幹 委	會 書 內 涉	編 總 幹 委	副 委	副 委	副 委	副 委

西本佳加	藤野久美子	東京
西 沙織		
50期(平成21年)		
沢柳賢二	中庭雅子	中央
酒井拓斗	石山誠之	明治
大和田明子	木下清隆	拓殖
小林數磨	森元鷹志	英和
黒瀧すずか	西田健太郎	専修
51期(平成22年)	久万純平	副・広
平田高嗣	小金井巧	副
藤井淳	西田健太郎	副
藤牧あゆみ	中央	会
上里允隆	東京	編
拓殖	専修	補
52期(平成23年)	拓殖	
委	会	

全日本学生合氣道連盟規約

全日本学生合氣道連盟規約

施行 昭和三十四年
改正 平成二十年九月十日

第一章 総則

第一条（目的）

本連盟は学生間における合氣道の普及発展と、連盟校相互の連絡並びに互いの親睦融和を図り、学生合氣道の発展に寄与することを目的とする。

第二条（流派）

流派はこれを問わない。

第三条（名称及び事務所）

①本連盟は全日本学生合氣道連盟と称する。
②本連盟は事務所を日本武道館内に置く。

第四条（事業）

本連盟は第一条の目的を達成する為に以下各号所定の事業を行う。

- 一、演武会
- 二、合同合宿
- 三、演武旅行、合同稽古、刊行物の発行
- 四、その必要と認められる諸事業

第五条（構成単位）

本連盟は各大学公認の合氣道部、又は連盟委員会によってこれに準ずると決議された合氣道会の大学単位を以つて構成する。

各号に当たる加盟校を強制的に脱退させることができる。

第七条（登録）

- ①加盟校は毎年、以下各号の連盟事務所へ文書を以つて提出することを要する。

第二章 加盟及び脱退

第六条の一（加盟）

①連盟加入に当つては、第七条に定める書類を事務所に提出しなければならない。

②新規加盟は連盟委員会による審議を経た後、十六条二項に定める議決により効力を発する。

③委員長は、前項の審議を行つために、書類の提出から二週間以内に委員会を招集しなければならない。

④第五条後段に当たる大学を加盟させるに当たつては、正式加盟までの一定期間、これを準加入とすることができる。

⑤前項の提出は、電磁的方法により行うことができる。

五、本年度役員氏名、住所、連絡先

六、行事日程

七、加盟員名簿

八、その他必要と認められる諸事項

三、連絡場所

四、加盟校規約

第三章 機関

第一节 総則

第八条（機関）

①本連盟は常時、第二節に定める

連盟委員会を置く。

②本連盟は、必要と認める場合に顧問及び最高顧問を置く事ができる。

第六条の二（脱退）

- ①六条の一の一項ないし三項の規定は、任意脱退の場合に準用する。
- ②連盟委員会は、二十四条一項

③前項顧問及び最高顧問は、連盟委員会の決議を経て、委員長がこれを委嘱する。

第九条（任期）
①任期は一年とする。但し任期中に交代する場合は、後任者の任期は前任者の残余の任期とする。
②再任はこれを妨げない。

第十条（顧問）
削除

第十一条（最高顧問）
削除

第二節 連盟委員会

第十二条（連盟委員会）

①連盟委員会は、連盟の最高機関である。

②連盟委員会は、本連盟事業計画の立案及び実施を行う。

第十三条（構成）

①連盟委員会は、連盟委員によつて構成される。

②連盟委員は、加盟校より選出される。

③連盟委員会は、委員長一名、副委員長二名を定める。

④削除

第十四条（担当委員）
連盟委員会は、以下各号に定める担当委員を置く。

一、涉外
二、広報
三、名簿
四、情報管理
五、編集
六、会計

第十五条（委員会）
①連盟委員会は毎月一回、定例委員会を開く。

②委員長が必要と認めた場合には、緊急委員会を召集する。

第十六条（定足数及び議決）
①連盟委員会は委員の三分の二の出席により成立する。但し、委任状も可とする。

②連盟委員会の議決権は、各委員につき一票とし、議決は出席委員の過半数により成立する。賛否同数の場合は、委員長の決定するところによる。

第十七条（任務）
①委員長は連盟を代表する。

②副委員長は委員長を補佐する。

第十八条（誠実義務）
連盟委員は任務を迅速かつ誠実に行わなければならない。

第四章 会計

第十九条（経費）
連盟の経費は、加盟費、分担金、寄付金、その他の収入を以つて充てる。

第二十条（会計年度）
会計年度は毎年十一月に始まり、十月に終る。

第二十一条（予算）
予算は、会計担当委員が之を作成し、連盟委員会の承認を得る事を要する。

第二十二条（決算）
決算は、会計担当委員が之を作成し、連盟委員会の承認を得る事を要する。

第二十三条（細則）
削除

①連盟委員会は、連盟委員によつて構成される。

②連盟委員は、加盟校より選出される。

③連盟委員会は、委員長一名、副委員長二名を定める。

④削除

第五章 罰則

第二十四条の一（罰則規定）
連盟委員会は、以下各号に定める

処分を行うことができる。

- 一、強制脱退
- 二、権利停止
- 三、警告

第二十四条の二（脱退）

①連盟委員会は、以下各号に該当する加盟校を、強制的に脱退させることができる。

一、連盟の威信を著しく傷つけた場合。

二、連盟の規約に違反した場合。

三、連盟と他団体の関係を著しく悪化させた場合

四、その他不適当と認められる場合

②脱退処分を行う場合には連盟委員会は直ちに調査委員会を組織し、之を調査することができる。

第二十五条（復権）

除名分校の復権は、十六条二項に定める決議による。

第六章 改正

第二十六条（改正）

本規約の改正には、連盟委員総数の三分の二以上の同意を要する

編集後記

まず初めに、今年度の連盟誌を発行するにあたり、ご協力いただきました、先生方、加盟校の皆様、スポンサーの皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

私にとって編集の仕事は初めての経験で、何もないところから作り上げていくことに初めは右往左往していました。しかし、何度も編集作業を手伝ってくれた中西委員長を始めとする連盟委員の皆の支えにより、発行にこぎつけることができました。

今年度の特別企画では各大学の合気道部の雰囲気を四字熟語で表していましたが、全大学の回答の中で、「切磋琢磨」が非常に多くありました。流派の違いはあっても、互いに励まし合い共に向かうと日々稽古することは同じなのだと感じました。同企画でもう一つのランキング、「主将を漢字一文字で表すと?」でも、三つの漢字からそれぞれの主将像とともに、各大学の主将に対する温かい想いが伝わってくるように思います。

最後になりましたが、今後の加盟校および全日本学生合気道連盟の益々の交流と発展を願いまして、編集後記に代えさせていただきます。

連盟誌 第四四号

平成二十七年十月十日 発行

発行責任者 中西亮介

編集責任者 村中礼菜

発行所

千代田区北の丸公園二一三
日本武道館学生武道クラブ内
全日本学生合気道連盟

印 刷 所

東京大学構内 文陽堂
電話 ○三一三八一三一七三八六
bunyodo@amethyst.broba.cc

第五十六期編集責任者

村中礼菜

祝 全日本学生合氣道連盟誌 第44号



武道具デパート

株式会社 櫻屋

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-4

T E L : 03-3262-1969

地下鉄 九段下駅 3b 出口前

www.sakuraya.org

南房総かつうら ◎NIPPON BUDOKAN TRAINING CENTER

日本武道館研修センター

耐震補強工事平成18年実施

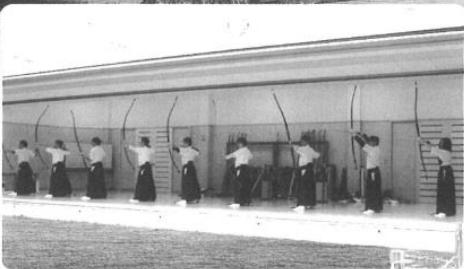


当センターは公益財団法人日本武道館の運営ですので、安価な料金で、しかも良質なサービスをご提供いたしております。

武道を愛する人たちの練成施設をはじめ、広く一般の皆様にもご利用いただける施設です。柔・剣道などの武道大会や合宿はもちろん、文化系サークル合宿、社員研修や講習会、中学・高校の課外活動、各種セミナーや会議・会合、グループや家族旅行などご宿泊にも最適です。

また、ご予算に応じて、特別料理(舟盛り・寿司盛り)も承っております。

皆様のご利用を心よりお待ち申し上げています。



弓道場(9人立ち、巻き廻室、男女更衣室、男女トイレ完備、夜間練習も可能)



各種武道合宿に最適な環境と設備を整えています。



大道場…1000畳の広さ(分割使用可)



第1研修室…武道の稽古にも使用可



相撲道場…シャワートイレ完備



宿泊室A(和室・定員5人) 10部屋



宿泊室B(洋室・定員7人) 36部屋



ロビー



食堂…食事はバイキングで食べ放題! (夕食料金で屋外バーベキューに変更可)



●武道を目的とした利用(税別1泊2食付き)



区分	宿泊室A	宿泊室B
高校生以上	5,900円	5,400円
小・中学生	5,600円	5,200円

・幼児の宿料は無料です。昼食料金…900円

・上記料金は消費税別。・食事はバイキング形式。

・宿泊利用での施設使用料は無料です。ただし、宿泊を伴わない場合は、別途使用料金を頂きます。

●武道以外の利用(税別1泊2食付き)

区分	宿泊室A	宿泊室B
高校生以上	6,200円	5,800円
小・中学生	5,700円	5,500円

武道の合宿をはじめ、文化系(書道等)、スポーツ(テニス等)の合宿、研修・講習会、その他会議、パーティー(式典等)、サークル、個人の方などに幅広くご利用いただけます。
・テニスコート(隣接)は、斡旋いたします。ただし、事前予約が必要です。



日本武道館研修センター

お問い合わせ・ご予約・お申し込み先は 日本武道館研修センターまで ☎0299-5231 千葉県勝浦市沢倉582 TEL0470(73)2111
<http://www.nipponbudokan.or.jp> FAX0470(73)2819



* 司法書士は市民に一番身近な「法律家」 *

司法書士 岡野直史 事務所

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町19番5-302号

Tel 03-3463-5750

Fax 03-3463-5690